

第8回日本アゼルバイジャン  
経済合同会議

報告書

2014年2月

日本アゼルバイジャン経済委員会

第8回日本アゼルバイジャン経済合同会議

報告書

2014年2月

日本アゼルバイジャン経済委員会

事務局：

〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル

電話：03-3551-6216/6218

一般社団法人 ロシアNIS貿易会



質疑応答・コメント.....	65
＜閉会挨拶＞	
閉会挨拶 シャリホフ議長 .....	70
閉会挨拶 小林会長.....	71
Ⅲ. 出席者名簿	
日本側出席者名簿.....	73
アゼルバイジャン側出席者名簿 .....	77
Ⅳ. 議定書	
日本語 .....	79
アゼルバイジャン語.....	81

**第8回日本アゼルバイジャン経済委員会合同会議  
プログラム**

時間	プログラム
9:00-9:30	レジストレーション
9:35-9:40	<b>【開会挨拶】</b> ●小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長／伊藤忠商事(株)代表取締役副社長執行役員
9:40-9:45	●シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長・副首相
9:45-9:48	●岸信夫・外務副大臣
9:48-9:55	●ハラホフ・アゼルバイジャン共和国外務省次官
10:00-10:15	<b>【基調講演】</b> ●小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長 「日本・アゼルバイジャン二国間経済関係の現状と展望」
10:15-10:30	●シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長・副首相 「アゼルバイジャンの社会経済発展の現状および日本・アゼルバイジャン経済関係の発展」
10:30-10:40	<b>【報告】</b> ①柳沢香枝 (独)国際協力機構(JICA)東・中央アジア部部长 「アゼルバイジャンにおけるJICAの活動と今後の協力可能性」
10:40-10:55	②N.サファロフ アゼルバイジャン共和国経済産業省次官 「アゼルバイジャンの経済・貿易・投資環境整備政策の現状と日本との経済協力」
10:55-11:05	③I.マメドフ アゼルバイジャン共和国通信・情報技術省次官 「情報技術分野における日本との協力の可能性」
11:05-11:15	④山崎徳夫 伊藤忠商事(株)バクー事務所長 「スマート街路照明サービス～必要最低限の費用で最大限の省エネ、維持管理の効率化を実現～」
11:15-11:25	⑤A.バダロフ アゼルバイジャン共和国代替・再生可能エネルギー庁長官 「アゼルバイジャン共和国代替・再生可能エネルギー庁の役割と今後の展望」
11:25-11:35	⑥J.バイラモフ アゼルバイジャン共和国教育省次官 「日本とアゼルバイジャンとの教育・人材育成分野での協力の可能性」
11:35-11:45	⑦足立誠 川重テクノロジー(株)システム開発事業部ITシステム部 谷義隆 国際計測器(株)試験器営業部 「日本防災プラットフォーム個別検討会プロジェクト」
11:45-11:50	⑧E.ナシロフ アゼルバイジャン国営石油会社(SOCAR)副社長 「SOCARと日本企業との協力」
11:50-12:10	⑨Z.ママドフ スムガイト化学インダストリアル・パーク副社長 「スムガイト化学インダストリアル・パークについて」

12:10-12:30	質疑応答
12:30-12:35	<b>【総括】</b>
12:35-12:40	●小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長
	●シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長・副首相
12:40-12:50	<b>【署名式】</b> 第8回経済合同会議議定書
13:00-14:30	日本アゼルバイジャン経済委員会主催レセプション (於:如水会館・ペガサスルーム)

## ＜開会挨拶＞

小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長／伊藤忠商事(株)副社長

### 開会挨拶

皆様、おはようございます。日本アゼルバイジャン経済委員会会長の小林と申します。よろしくお願い申し上げます。それでは、私の方から開会に先立ちましてご挨拶申し上げたいと思います。尊敬するシャリホフ副首相、アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会議長閣下、アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会代表団の皆様、イズマルザーデ・アゼルバイジャン共和国特命全権大使閣下、岸外務副大臣、高橋駐アゼルバイジャン日本国特命全権大使閣下ならびにご来賓、ご列席の皆様、日本アゼルバイジャン経済委員会を代表致しまして一言開会のご挨拶を申し上げたいと思います。

まず本日は1992年2月、多数のアゼルバイジャンの方々が犠牲になられたホジャリ事件の記念日でございます。日本アゼルバイジャン経済委員会を代表しまして犠牲になられた方々に対し、心より哀悼の意を評したいと思います。

まずはシャリホフ副首相を団長とするアゼルバイジャン代表団の訪日を心より歓迎申し上げます。またご列席の皆様には本日の会議にご出席を賜りましたことに対して心より御礼を申し上げたいと思います。

本日の合同会議には日本側からは日本アゼルバイジャン経済委員会のメンバーをはじめとしまして、アゼルバイジャンとの経済交流に関心のある民間企業の代表が多数参加しております。また日本政府および関係機関からは外務省、経済産業省、国際協力機構、日本貿易振興機構の代表の方々にも参加していただいております。日本側の参加者の総勢は約70名となりました。またアゼルバイジャン側からはシャリホフ副首相をはじめとしてご報告いただきますサファロフ経済産業省次官、マメドフ通信・情報技術省次官、バダロフ代替・再生可能エネルギー庁長官、バイラモフ教育省次官、ナシロフ・SOCAR 副社長、ママドフ・スムガイト化学インダストリアルパーク副社長を含めまして総勢17名に参加をいただいております。このように第8回合同会議には日本とアゼルバイジャンの双方合わせて総勢約100名が参加するかつてない規模のものとなりました。まさに日本とアゼルバイジャン両国間の経済関係の発展について双方が大きな関心を寄せている証左であると思っております。

本日の会議でございますが、私とシャリホフ副首相の基調報告のあと、日本側からはアゼルバイジャンにおける活動と今後の両国の経済協力の可能性について3件の報告をしていただきます。一方アゼルバイジャン側からは各省、および国営会社の皆様よりアゼルバイジャンの経済発展状況、経済産業政策、具体的なプロジェクトの現状などについて6件の貴重なご報告をいただく予定としております。すべての報告終了

後には双方出席者による質疑応答の時間を設けております。そして最後に今回の合同会議の議定書の署名式を行う予定にしております。ご列席の皆様のご協力を賜りつつ本日の合同会議が実り多いものとなりますよう精一杯務めさせていただく所存でございますので、どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。甚だ簡単ではございますが、私の開会の挨拶とさせていただきます。



## シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長／副首相 開会挨拶

尊敬する小林様、尊敬する外務副大臣岸様、尊敬する在アゼルバイジャン大使、ご友人のみなさま、おはようございます。まずはじめに皆様にお礼を申し上げたいと思います。私たち代表団を心から暖かく歓迎していただきありがとうございます。

私どももこの会議については非常に大きな意味を持っていると思っております。そしてこの合同会議でございますが、このような形で開催できるというのは非常に素晴らしいことだと考えております。私ども代表団を代表しましてもう一度お礼を申し上げたいと思います。

小林様からはさきほど今日の悲劇のことについてお話をいただきました。22年前、アゼルバイジャン国民が20世紀でも非常に大きなジェノサイドと言われるホジャリの悲劇にあいました。ナゴルノ・カラバフにいるアゼルバイジャン人に対してアルメニアからの攻撃があり、非常に多くの犠牲がでました。たくさんの子供、女性を含む犠牲でありました。これは大きなジェノサイドであると私どもは考えております。このような悲劇の日にはわたくし共が会ったということでぜひ皆様のお許しをいただいて皆様と一緒に1分間の黙祷を捧げたいと思います。

ありがとうございました。



## 岸信夫・外務副大臣

### 挨拶

シャリホフ・アゼルバイジャン共和国副首相閣下、小林日本アゼルバイジャン経済委員会会長、ご列席の皆様、第8回日本アゼルバイジャン経済合同会議の開催にあたって日本国外務省を代表し、ご挨拶を申し上げたいと思います。

一昨年日本とアゼルバイジャンは外交関係樹立から20周年を迎えました。この間両国は友好と協力の精神に基づいて着々と良好な関係を築き上げてまいりました。両国の交流を主導してきたのは本日会議を共催するアゼルバイジャン日本経済協力国家委員会、ならびに日本アゼルバイジャン経済委員会、特にシャリホフ副首相は1999年以来15年の長きにわたってアゼルバイジャン側の議長として両国の経済協力拡大に力を尽くしてこられました。この場をお借りしまして改めてシャリホフ副首相に敬意を評したいと思います。

日本はアゼルバイジャンの独立以来一貫してアゼルバイジャンの国づくりと持続的発展に役立つ経済協力を行ってまいりました。日本の協力によって建設されたセヴェルナヤ・ガス火力複合発電所は経済成長とともに急増するアゼルバイジャンの電力需要を賄う施設として、国民生活に欠かせない重要な役割を果たしています。また、シマル・ガス火力複合発電所第二号機も現在建設作業が順調に進んでいると承知しています。

日本はさらにアゼルバイジャンの教育、企業、民生の分野においてもきめ細かい支援を展開し、これまでに179件のプロジェクトを実施してきています。最近ではアゼルバイジャン政府シャムキル地区の村に診療所を建設するプロジェクトや同じく西部のガダベイ地区で村の水くみ場を整備し、住民に安全で豊富な飲料水を提供するプロジェクトに署名を認めています。これらの支援がアゼルバイジャン国民の生活向上に大きく貢献することを希望しています。

御列席の皆様、私は外交関係樹立から20年以上が経過した今、日本とアゼルバイジャンの関係は新たなステージに入りつつあると考えています。すなわち日本からの経済援助を中核として二国間関係を発展させてきた時代から政治、経済、文化、人的協力交流などあらゆる分野で互恵的な協力を進めていく時代への移行です。人的交流の面ではすでに新しい芽が生じてきています。アゼルバイジャンのイスマイル地区と静岡県伊東市の間では親密な友好関係が築かれているはずです。昨年11月双方の自治体は友好交流協定を締結、これは日本とコーカサス地域の地方都市交流の先駆けになるものです。

ビジネスの面でも期待があります。昨年12月、日本外務省の招聘でアゼルバイジャ

ンからアバゾフ通信・情報技術大臣が訪日されました。日本・アゼルバイジャン両国の協力の地平が従来の石油及び天然ガスの開発を巡る分野に加え、さらに情報通信、宇宙、教育、医療など幅広い分野で広がっていくことを希望いたします。アゼルバイジャン国内における情報通信ネットワークの整備や医療機器の整備などすでにいくつかの分野でビジネスの可能性が生まれつつあると承知をいたしております。

また、2014年はアゼルバイジャンが定めた「産業年」と承知いたしております。アゼルバイジャンが目標とする資源依存型の経済発展モデルから、イノベーション主導型経済発展モデルへの移行に際して、高度な技術と知見を有する日本企業が協力できる余地は極めて多いと思います。関係発展を望むお互いの気持ちは共通であります。相互理解を深め、新しいビジネス関係を発展させるため、フェイス・トゥ・フェイスの交流をさらに積極的に行なっていくことが重要であります。本日の会議がそのような交流を促進するものとして充実した内容の濃いものとなりますことを祈念申し上げ、私の挨拶に代えさせていただきます。

### ハラフォフ外務省次官コメント

どうもありがとうございます。尊敬する共同議長、シャリホフ・アゼルバイジャン副首相、そしてアゼルバイジャン日本経済委員会の皆様、小林会長、そして尊敬する岸外務副大臣、ご列席の皆様。今回の第8回合同会議の参加者の皆様に心からのご礼節を申し上げます。今回の会議は東京で開催されております。両国の協力関係があらゆる分野で成功裡に行えているということにアゼルバイジャン側は大変満足しております。そしてこのような関係はプラグマティックな二国間関係のお手本であるということができたと思います。

今岸副大臣がおっしゃいましたように、我が国が独立を達成して以降、日本の企業、経済は大変に積極的な形でアゼルバイジャンの経済に関与してくださっております。そして改革が行われている全ての分野、発展が起きている全ての分野、そして戦略的なプロジェクトといったものすべてに日本側が関与、参加してくださっているのがあります。今後、二国間の協力関係がより一層深まり、拡大するというところに私たちは大きな関心を持っておりますので、日本政府および日本国民の皆様との協力を拡大していきたいと思っております。

両国の経済関係はこれまでの実績が示しているようにとても優れた成果を上げています。現時点での協力のレベルでありますけれども、これは両国間の関係を新しいレベルに引き上げるにふさわしいものであります。そしてたいへん大きな南カフカス地域におけますプロジェクトが今後も協力の下に実行されるということを確認させます。

国際的、そして地域的問題においても、両国間の関係というものは大きなものがあります。そして、経済のみならず、安全保障を含めた他の分野、そして国際政治といった分野でも日本の地位が高まっておりまして、私たちの目から見た日本の地位が高まっているのであります。南カフカスにおいて、そして地域全体において、私たちアゼルバイジャンは日本の信頼できるパートナーであります。みなさんもよくご存知のように我が国が独立を達成して以降、アルメニアの対アゼルバイジャン共和国の侵略、アゼルバイジャンの国土の5分の1がアルメニアに占領されている、そして100万人以上の難民がアゼルバイジャンにいるにも関わらず、アゼルバイジャンは大変本格的な経済改革を行うことができました。その成果といたしましてアゼルバイジャンは経済的に大きな成果を上げておりまして、経済成長は著しいものがあります。アゼルバイジャンは今日ダイナミックに発展しております。この地域の経済ポテンシャルの80%はアゼルバイジャンのものであるわけです。この地域における重要なプロジェクトはアゼルバイジャンの参加のもと、アゼルバイジャンの国土において実行されております。

大変重要な今後の協力の方向性でありますけれども、このような協力を今後も行うことによって、日本とアゼルバイジャンの関係を新しいレベルに引き上げることができると信じております。産業において、エネルギーにおいて、輸送、情報通信、代替・再生可能エネルギー、観光といった分野での協力が今後大いに期待できます。そのことによって、我が国の政府も目的、結果が達成できると思っております。アゼルバイジャンの経済プロジェクトの実行において、日本がより深い関心示してくれると信じております。戦略的な面では両国の利益は完全に合致しております。特にこの地域においては完全に合致しております。そこで経済協力が今後もいっそう拡張され、今回の私たちの日本への経済ミッションは、こういった投資も含めたチャンスを生かすということに大いに寄与すると信じております。第8回合同会議の参加者の皆様、現在副首相も指摘しましたように、今日の会議は大変重要なものであります。充実した、実務的な話し合いが行われるということから今後の共同プロジェクトの運命が大きく影響されると思っております。そして両国の貿易関係も倍増できると信じております。どうもご清聴ありがとうございました。

## <報告>

### 小林会長

#### 基調報告「日本・アゼルバイジャン二国間経済関係の現状と展望」

前回の第7回経済合同会議は2011年11月にバクーで開催されました。その際私どもが表敬訪問させていただきましたアリエフ大統領閣下が昨年10月に大統領に再選され、3期目をスタートされました。大変遅くなりましたけれども、この場を借りまして大統領閣下にお祝いを申し上げたいと思います。また、アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会の議長でいらっしゃいますシャリホフ首相も再任されましたこと、私どもにとって誠に心強く、嬉しい限りでございます。シャリホフ首相にも、あらためましてお祝いを申し上げたいと思います。

#### (アゼルバイジャン経済)

アゼルバイジャンの経済でございますが、最近の状況に関しましては、この後の副首相閣下の基調報告、および経済産業省やその他の報告でアゼルバイジャン側から詳細なご説明がいただけると思いますので詳しくは触れませんが、従来の主軸産業である石油分野だけでなく、天然ガスの増産や、非石油セクターの発展によりましてアゼルバイジャン経済は順調な成長を続けています。アゼルバイジャンでは脱資源依存と経済の多角化を目指して具体的な政策を目指していらっしゃいますが、世界銀行やアジア開発銀行といった国際機関はアゼルバイジャンのそのような政策に関して高く評価するとともに今後の同国の成長を大いに期待していると聞いております。

国家経済の中心であります石油ガス分野で言えば、すでに開発が決定しておりますシャフデニス・ガス田の第二フェーズに加えまして、新しいガス田の開発も予定されており、これらのガスがトルコ経由でヨーロッパ向けに輸送される TANAP、TAP というガスパイプラインプロジェクトの建設には、日本としても大変注目しております。特に TANAP には高品質な資機材の供給という分野で参画の可能性があると考えております。

#### (日本経済)

一方、日本経済に関しましては長年にわたってデフレに苦しめられてまいりましたが、2012年12月に安倍政権が発足し、デフレ政策の大転換の真最中であり、状況は様変わりとなりました。アベノミクスの「三本の矢」のうちの第一の矢であります、「異次元金融緩和」が効果を発揮いたしまして政権発足時には1ドル＝80円程度だった円相場が100円となり、行き過ぎた円高が修正されました。同時に1万円を割り込んで

いた日経平均株価も円高による企業業績の回復とアベノミクスの大きな期待感によってこの年末年始には1万6千円台まで回復しています。

続いて第二の矢であります「機動的財政出動」によりまして震災復興関連を中心とした公共工事の拡大が利益を押し上げています。また株価上昇に伴う資産効果と消費マインドの改善によりまして、個人消費も回復しつつあります。一部では高額消費の復帰も伝えられるなど、日本中に蔓延しておりました停滞ムードが払拭されつつあります。

こうした現在の景気回復の動きを、4月に控えた消費税率引き上げに伴うショックを乗り越えまして、持続性のあるものとするためには企業が競争力を取り戻してその恩恵を雇用の増加や賃金の上昇という形で家計に対して還元することが重要であります。そのためには第三の矢である成長戦略が鍵でありまして、政府の打ち出しました「日本再興戦略」の具体化によって今後の成長分野に対して民間投資が活発化することが期待されています。

なお貿易に関しましては東日本大震災以来続く原子力発電の停止の影響で火力発電向け LNG の輸入が膨らんでいることなどから 2011 年以降貿易赤字が続いておりましたが、これまで日本が海外に投資しておりました海外資産からの配当金や金利収入でいわゆる所得収支の黒字になりましてかろうじて経常収支を維持している現状でございます。

## (二国間貿易)

さて日本とアゼルバイジャンの貿易関係でございますが、両国間の貿易総額は 2012 年が前年比約 2.5 倍の 2 億 1,700 万ドルでございました。一方 2013 年は 9,700 万ドルと大きく低減いたしました。2012 年は原動機、自動車、パイプ等が好調な輸出を牽引し、前年比約 2.3 倍の 1 億 9,000 万ドルに達しました。日本の輸入は、2010 年と 2011 年に皆無でありました原油の輸入が復活いたしましたために 2,500 万ドルと大幅に増加いたしました。

一方 2013 年の日本とアゼルバイジャンの貿易は再び大きく落ち込んでおります。日本からの輸出は対前年比約 50% 減の 9,600 万ドルとなりました。主な品目は鋼管、機械類、自動車等が占めているという状況は変わっていませんが、原動機の輸出が 2012 年に比べて大きく減少したことが影響しております。また日本の輸入については原油の輸入が皆無となりました。対前年比で約 96% 減少となり 102 万ドルにとどまっております。

このように日本とアゼルバイジャンとの貿易は輸出輸入とも年による変動が激しく不安定な状態が続いております。これは取引品目が限定的であること、換言すれば両

国の関係が経済支援や石油関連ビジネス等特定の範囲にとどまっていることが要因と考えられます。こうした状態を打破して両国間の貿易が安定的に発展するためにも、さらなるビジネスの振興、特に投資の促進が不可欠だと思います。その際に鍵となりますのはアゼルバイジャンで尽力されております脱資源依存、経済多角化政策の促進であります。

#### （非石油ガス分野）

先程も触れましたけれども、ここ数年アゼルバイジャンでは建設、農業、IT 通信、流通業の成長を促進して長期的な経済発展を持続させようとしておられます。これらの分野では日本の持つ高度な技術や資金力、あるいは人材等を生かしてアゼルバイジャンの経済発展に必ずや貢献できるものと確信しております。

日本アゼルバイジャン経済委員会が内外より受けておりますさまざまな照会の内容が最近では医療、情報通信、製鉄、化学など多岐にわたっているのもアゼルバイジャン政府の脱資源依存、経済多角化政策を反映したものだと思います。従来から両国の関係が構築されております石油・ガス分野だけでなく、このような分野においても高度な技術、また資金力や人材等を持つ日本に大いに貢献する余地がございまして、両国にとって大きなビジネスチャンスがあると考えられます。

また農業も貴国の優先分野の一つと伺っております。日本とアゼルバイジャンはユーラシア大陸のほぼ端と端に位置する国同士であるため物流という点で貿易が制限されているところでもあります。しかし、今年の初めよりアゼルバイジャンのワインが日本でも販売されるようになりました。まだ販売網は限定されているようでございますが、将来、貴国のワインが多くの店の店頭に並ぶようになりますと両国間の新たな経済関係の発展のシンボルになると思っております。

#### （政府要人の往来）

さて、2013年10月アゼルバイジャンのアバソフ通信・情報技術大臣が訪日された際には当経済員会でも昼食懇談会を開催いたしております。宇宙開発、通信インフラの整備、科学技術協力など懇談の内容は多岐にわたります。今後の両国の協力関係の強化が期待される分野と考えられております。また去年は貴国の「情報通信年」でありまして、情報通信分野の成長に向けたさまざまな行事や政策がアゼルバイジャン国内で行われたとお伺いしております。日本からも経済産業省主催で宇宙開発分野のミッションが派遣されるなど、この分野の企業が現地を訪問し、活発な交流が行われたということですので協力が始まっております。

ちなみに本年は「産業の年」と伺っております。インダストリーという言葉の意味

は非常に広いですが、本日報告が予定されております、化学や代替・再生可能エネルギーなど新たな産業の発展が活発化することに期待したいと思います。

(経済委員会の活動)

このように日本とアゼルバイジャンの経済関係の活発化を受けて日本アゼルバイジャン経済委員会も活動を活発化しております。2012年4月には住友商事さん、6月には日揮さんが当経済委員会に入会されました。現在会員数は8社となっております。大半は商社ですが、メーカーや金融など今後、会員が増えてアゼルバイジャンとの経済交流が多岐にわたって活発化するよう、努力をして参りたいと思います。

長期的な経済発展を確保するために従来の石油ガス分野だけでなく、農業や情報通信、医療など様々な分野の成長が必要との認識に立ちまして、脱資源依存、経済多角化政策を進めておられるアゼルバイジャンと高度な技術を持つ日本との間には大きなビジネスチャンスがあり、相互に最適なパートナーとなりうる魅力的な存在です。新たな協力の可能性の発展と両国のさらなる経済関係の発展にむけて私ども日本アゼルバイジャン経済委員会といたしましてもさらなる努力を継承していく所存でございますので、今後とも多岐にわたる情報交換、あるいは率直な意見交換を継続させていただきますようお願い申し上げます。以上、本日の合同会議が実り多いものとなりますことを祈念いたしまして、私の基調報告とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

**シャリホフ副首相**  
**基調報告「アゼルバイジャンの社会・経済発展の現状および**  
**日本とアゼルバイジャンの経済関係の発展」**

尊敬する会議参加者の皆様、友人の皆様、ご列席の皆様。心からの深い満足を持ってアゼルバイジャン共和国大統領イリハム・アリエフ閣下から皆さまへのご挨拶をお伝えしたいと思います。今日第8回日本アゼルバイジャン経済合同会議が開催されるわけであります。充実した、成果のある仕事ができることを期待しております。日本側の皆様にホスピタリティーそして今回の第8回の合同会議の運営が素晴らしいことに対してお礼を申し上げたいと思います。

(日本とアゼルバイジャンの関係の歴史)

さて、1991年にアゼルバイジャンは独立を回復いたしました。日本は、すぐにこれを承認し、国交を樹立した最初の国の一つでありました。その時以来、両国は大変積極的な協力を行っております。お互いに対する尊敬の気持ちそして友好がもととなっております。1998年に全国民のリーダーであるゲイダル・アリエフが日本を訪問しました。そしてイリハム・アリエフ大統領が日本を2006年に公式訪問いたしました。この2つの訪日が両国間の関係発展にあたりまして、大変重要な役割を果たしているわけであります。

これまでの20年近くにおいて日本政府はアゼルバイジャンに対して全面的な技術的、人道的、財政的の支援を与えて来ております。そしてとても有利な、重要な分野への融資を行ってくれたわけであります。これまでの日本からアゼルバイジャンへの友好的な融資は総額10億ドル以上であります。そして直接の援助は700万ドル以上になっています。日本はアゼルバイジャンに対しての優遇的な融資、そして直接援助を行っている国の中で最も進んだ国であるわけであります。私たちは日本政府、そして日本のすべての組織、機関、日本の企業に心から感謝をしております。特に駐アゼルバイジャン日本大使館の皆様にも感謝したいと思います。大使館の皆様は大きなプロジェクトが実現するにあたっての仲介者を務めてくださっているわけであります。

(アゼルバイジャン経済)

さて、それではわが国の経済状況について簡単にお話をしたいと思います。2013年、我が国はダイナミックに発展をいたしました。経済が大きく発展した年でもあります。GDPは6%成長いたしました。特に私たちが嬉しく思っているのが、非石油セクターが約10%伸びたということであります。これは近年の改革の成果であると私たちは考

えております。

現在、非石油セクターに関しましては大変本格的なプログラムの実現が行われております。そして、これからも非石油セクターにおけます重要なプロジェクトの実行が進むわけであります。国民の現金所得が8%伸びました。これはインフレの3倍の伸びであります。失業率は5%にまで下げることができました。2013年、経済に対する投資額は210億ドルで、これは過去最大の金額であります。これほどの投資額はこれまでありませんでした。280億ドルのうちの175億ドルが国内からの投資であります。現在、外貨準備高は500億ドルになっております。

昨年、アゼルバイジャンにおきましてはいくつもの大きな国際的なイベントが開催されました。まず、バクーにおいては第3回国際人道フォーラムが開催されました。有名な政治家、サイエンティスト、そして10人のノーベル賞受賞者が参加しました。また、第2回の文化の多様フォーラムを開催いたしました。また、ダボスフォーラム、世界経済フォーラムもバクーで開催されたわけであります。これはアゼルバイジャンの国際的なイメージを大いに高めるものであり、またダイナミックに発展する現代的な国家であるということを国際社会が認識する機会になりました。

2013年、国連の安全保障理事会におけるアゼルバイジャンのミッションが終了いたしました。2年間にわたりまして非常任理事国として国連安保理事会で我が国は仕事をしたわけであります。アゼルバイジャンに対する国際社会におけるサポート、信頼が大いに向上いたしました。そして、アゼルバイジャンの影響力は国連における採択の数字においても明らかであります。我が国が安全保障理事会の非常任理事国になるということをも155の国が支持いたしました。日本も含めてであります。

#### (安全保障)

さて、社会・経済発展は平和と安全保障と密接に結びついております。アルメニアとアゼルバイジャン間の紛争は大変残念なことに現在まで続いているわけであります。これはアゼルバイジャンおよび地域全体の経済ポテンシャルがフルに実現されることの最大の障壁となっております。アルメニアにおける軍事侵略、およびアゼルバイジャンの国土の20%がアルメニアの占領下に有り、民族浄化をアルメニアが行っているということは大変深刻であります。

アゼルバイジャン国内には現在100万人以上の難民がいます。アルメニアの占領地域におきましては何世紀にもわたってアゼルバイジャンの人々が築き上げてきた成果がすべて破壊されております。すべての歴史的記念碑も破壊されているわけであります。国連は4回にわたり決議を行いました。これは占領地区からアルメニアの武装勢力の即時無条件撤退を求めるものでありますが、アルメニア軍は今も侵略を継続して

おります。アルメニアの立場は非建設的であります。またアルメニアは国際法の原則に従うことを拒否しています。アルメニアは占領地区において不法な行動をとっております。これは円滑な交渉の実現を許すものではないのであります。

#### (エネルギー分野)

さて、それでは次にアゼルバイジャンと日本の協力に話題を移したいと思います。アゼルバイジャンと日本の協力、プライオリティが一番大きな分野はエネルギーセクターであります。これは大変充実した形で行われておりましてアゼルバイジャンも日本もともに利益を得ているわけであります。アゼルバイジャン国民の全国民的なリーダー、ゲイダル・アリエフのイニシアチヴにより、そして懸命な政策により、1994年に「世紀の契約（コントラクト・オブ・センチュリー）」が調印されました。これは外国企業とアゼルバイジャンとの協力に新しい可能性を与えるものであります。

アゼリ・チラグ・ギュネシリ油田開発でありますけども、すでに数年にわたってアゼルバイジャンの石油が BTC パイプラインによって輸出されています。現在日本の企業である INPEX と伊藤忠が BTC パイプラインにシェアを持っています。また、アゼリ・チラグ・ギュネシリの開発にシェアを持っております。また日本企業の東洋エンジニアリング、三菱はシマル2発電所の建設に参加しております。また三井、住友、三菱といった企業、その他の企業もアゼルバイジャンで成功しております。アゼルバイジャンにおけますプロジェクトに参加してきた、そして現在も参加している企業のみなさんは満足していると確信しています。

2013年、アゼルバイジャンの石油・ガスのポテンシャルを発展、強化するための歴史的な協定がいくつも調印されました。まず、2012年に TANAP プロジェクト協定が調印されたことにより、2013年6月にトランス・アドリア・パイプラインが主要ルートに認定されました。そして2018年以降のアゼルバイジャンのガスを欧州に販売するという契約はすべて調印されました。そして、昨年暮れ、2013年12月17日、バクーにおきましてシャフデニス2の投資協定が調印されました。シャフデニス2、TANAP、TAP は合計450億ドルの投資になるわけであります。

#### (非石油ガス分野)

2013年、非石油セクターにおいても本格的なステップを踏み出しました。特にこれは統計によって裏付けておりますけども、強調したいのは宇宙産業が我が国に創設されたということでありまして。2013年はアゼルバイジャンにおける宇宙産業の創設年として歴史に残ります。アゼルバイジャンで初めての人工衛星第一号、アゼルスペース第一号が打ち上げられました。私たちは NEC をはじめといたしまして日本企業の皆様

とぜひ情報通信技術、ICT 分野でも協力していきたいと思っております。ハイテク製品の共同生産をいたしまして地域の市場へ進出できればと思います。

新しい近代的な観光産業も構築されております。地方には5つ星のホテルが数件オープンしております。新しい観光ゾーンが設置されております。この五年間でございますけれどもスキー場「シャフダグ」がアゼルバイジャン北部のクサール地区に建設されました。4軒の素晴らしいホテルがございます。1軒は建設中でございます。周辺にはホテルや国際空港などのインフラが整っています。全ての条件が整っていると思えます。ぜひこの分野におきましては、日本の旅行業界の皆様、毎年バクーで開催されておりますアゼルバイジャン国際観光見本市に参加して頂きたいと思っております。アゼルバイジャン観光協会と日本国際協力機構（JICA）との協力推進も有意義ではないかと思っております。

農業の発展も大変重要な方向性の1つです。昨年、農業の成長は約5%でございました。農業の発展のために最も近代的で進歩的な手段を用いていくことが計画されております。

次に運輸部門ですが、この分野も大きな成果が見られます。まず500kmの道路が敷設されました。幹線道路のみならず農村の道路が建設されて、4つの集落が結ばれました。またグローバルな輸送プロジェクトが実施されております。鉄道建設、バクー～トビリシ～カルスが建設中です。これはこの地域にとって最大規模、最重要輸送プロジェクトの1つとされております。この鉄道の開通は2015年を予定されております。ぜひ日本の運輸機関、関係企業の皆様がこの鉄道を今後貨物輸送に活用していただければと思います。欧州とアジアを約600km縮めて結ぶことができる大変有益な鉄道になると思えます。これに関連して、ぜひ日本の方々にはアゼルバイジャン共和国政府・日本政府間国際複合貨物輸送協定案のご検討を加速して頂ければと思います。

また、円借款契約が2009年5月29日にJICAと調印されたわけですが、この契約は地方都市下水道整備事業の枠内のものになっております。これにより、下水道の整備を地方中核10都市で実施する予定となっております。この場をお借りして、日本政府の皆様、御礼を申し上げたいと思っておりますが、実は非常に残念なことです。この件に関しましてFSで見積額が評価されたわけでございますけれども、この評価価値、見積価格が近年非常に上がってしまいました。従って、追加融資をお願いしたわけですが、ぜひ外務省、また日本の財務省また関係省庁また、もちろんJICAも含めて、この下水道整備に関しての追加融資をお願いしたいと思っております。地元の住民もこの件に関しまして日本政府から融資がなされて日本の専門家の方々が実習してくださるということを非常に期待しております。地元住民はこのプロジェクトを楽しみにしていますので、是非ご検討をお願いしたいと思います。

次に、近年優先分野として代替・再生可能エネルギーが注目されています。大統領令によって、代替・再生可能エネルギー庁が設置されました。今回この代表も参加しております。この分野において、日本の世界的リーダーともいえる企業の方々にもぜひ参加をしていただき、密接な協力関係を推進していきたいと思っております。この分野に関しては、ファイナンシャル、そして技術的な支援をお願いしたいと思っております。発電所等を共同で建設できればと思っております。発電所としては、風力、太陽光が考えられております。協力の試みとして、おそらく2000年頃に、日本企業トーマスが私たちの依頼に基づき、国中をすみずみ調査しまして、風力発電所の建設を目指しましたが、なかなか進まなくなり一旦中断されています。いずれにしても政府からはこの分野に関して支援します。

さらに、すでにお話がありましたが、今年は「産業年」と定められています。特にこれに関連して、産業施設の建設が重視されています。これが今後の産業の発展を牽引すると考えられています。その一部として、テクノパークの建設が挙げられます。すでに成果もあります。スムガイトテクノパークがあります。その他にもミングチェビル、また、バクー市のバラハヌイ村にもテクノパーク建設が予定されていますので、日本の大手企業の皆様におかれましても、このテクノパーク建設にご参加いただければと思っております。後ほど、この件に関して私どもの省からもプレゼンテーションがあると思います。

バクーおよびその他の地域においてアゼルバイジャンでは、近年大変多くの医療保健施設ができています。昨年末、私の個人的な依頼により、バクーに東芝の代表団の方々に来ていただきました。東芝とはビジネス協力に関するプロトコルが調印されました。バクーに医療センターを建設するという内容です。この分野に関しても、東芝をはじめとして日本の企業の皆様、日本の世界的な先進的な企業の皆様方との協力関係を今後とも積極的に発展させていただきたいと思っております。日本の関係省庁の皆様方におかれましても、ぜひ、この医療分野に関して、たとえば、医療機器の導入もそうありますが、医療専門家の長期研修プログラムをご検討いただければと思っております。この件に関しましては、大臣の方々との会見の中でもお願いしたいと思っております。具体的にどの分野でということ、私の方で書類がありますが、日本滞在中に具体的な話を進めながら日本側からも具体的なお答えがいただけることを期待したいと思っております。

次に先ほども話がありましたが、私たちの代表団の中には教育省の次官が参加しております。教育分野でも協力をしていきたいと思っておりますが、具体的には職業技術訓練といった分野での今後の協力関係を育もうと思っております。日本では、職業訓練のレベルが非常に高いと思っております。アゼルバイジャンではまだ弱い分野で

すので、職業訓練、またさらに専門家が実力アップするための研修を進めていきたいと思っております。この分野での日本の協力もお願いしたいと思っております。

さらにはお願いですが、アゼルバイジャンも地震がある国です。日本は地震・災害の分野では非常に豊かな経験を持っておられます。防災や、防災・人災の警告・管理に関して非常に蓄積された豊かな経験がございます。いわゆる非常事態に対する対策が講じられております。我が国にもアゼルバイジャン非常事態省がありますので、この分野での人材育成が大変重要になっております。今回の代表団の中に非常事態省次官も参加しております。この分野での人材育成をぜひ何か協力関係を構築できればと思っております。ご支援をよろしくお願いいたします。

今回の私たちの会議は、私たちの方から様々なプレゼンテーションをさせていただくことになっていきます。なかでも日本の中小企業のことを学ぶこと、また両国の企業家同士の交流、合同ビジネスフォーラムの開催、貿易拡大の可能性、情報通信技術や教育、代替再生可能エネルギー分野での交流、日本モデルのテクノパークの設置・活用などについてプレゼンテーションをさせていただくことになっております。共同議長、またご列席の皆様、友人の皆様。私どもといたしましては、今後とも日本とアゼルバイジャンの経済交流をあらゆる分野で拡大をしていきたいと思っております。本日の会議が、ダイナミックにアゼルバイジャンと日本の関係が深まることを期待していきたいと思っております。あらためまして、皆様に歓迎のご挨拶を、今後のご成功ご活躍をお祈り申し上げます。大変ありがとうございました。

**柳沢香枝・(独)国際協力機構 東・中央アジア部 部長**  
**報告「アゼルバイジャンにおける JICA の活動と今後の協力の可能性」**

シャリホフ副首相閣下、小林会長ならびにご列席の皆様。第8回を迎えるアゼルバイジャン経済合同会議において JICA を代表しましてご報告の機会をいただきまして、心から御礼申し上げます。驚きますことに、私から見える範囲ではメインテーブルには女性は二人しか座っておりません。そういう意味で私が報告の一番を切らせていただくのは、大変光栄に存じております。

アゼルバイジャン共和国は独立後の困難な時期を乗り越えて、目覚ましい経済発展を遂げています。貴国の優先課題である非石油部門に関しましては様々な改革努力が実り、近年の非石油部門の成長率が9%台で、大変堅調に推移を見せていることを大変喜ばしく思います。貴国の安定的な経済成長が地域全体の安定と発展に大きく貢献するものと理解しております。

私ども JICA は貴国の独立後 1990 年代初頭より貴国との間で技術協力、ODA での無償資金協力、円借款を通じた協力を継続してまいりました。各種の協力事業を成功裏に終わることができました背景には、シャリホフ副首相閣下および貴国政府の皆様方の多大なご尽力があったと存じております。日本および JICA に対していただきましたご信頼に対して、あらためて熱く御礼申し上げます。

本日はこれまでの JICA の協力と今後の可能性についてお話をさせていただきます。JICA はアゼルバイジャン共和国のニーズを踏まえ、電力、上下水道、農業、防災、ガバナンス、観光、地域開発、民間セクター開発、金融など複数の分野での協力を展開しております。なかでも電力分野での協力が一番長く、先ほども申し上げましたが、今まで円借款によるシマル・ガス火力発電所 1 号機、2 号機の建設を通じ、貴国の電力事情の改善に貢献してまいりました。この事業を通じて、高効率のコンバインドサイクルガスタービン施設の導入による省エネルギーと CO2 削減にも取り組んでまいりました。また、発電所設備と並び、効率的な電力システムの運用や、発電所設備の維持・管理に関し、日本の技術を提供することも実施しております。今後も引き続き同国の経済発展の基礎となる電力分野の協力を重視してまいりたいと思っております。

貴国が重点を置いておられる農業分野では、農業機械や灌漑用機材の供与を通じ、生産性の維持・拡大に貢献してきたほか、食品衛生、品質管理の研修を通じ、食品安全の確保と輸出ポテンシャルの拡大を支援しております。今後も、日本の知見が生かせるよう協力を継続してまいりたいと思います。

水分野につきましては、さきほど副首相からお話がありましたように円借款を通じまして、地方 10 都市において上下水道の整備をすすめております。今後の対応につき

ましては、日本の外務省、財務省、経済産業省と相談してまいりたいと思います。さはさりながら、日本には約3%台の漏水率をはじめとする高い技術力がありまして、事業者としての地方自治体、技術を持つメーカー、施工監理を担うコンサルタントが一体となって支援することができます。上下水道分野につきましては、ハード面とソフト面の両面から貴国のサービスにさらに貢献できます。

また、防災分野に関しまして、日本はおっしゃるとおり多様な自然災害に見舞われ、そこで得られた教訓を活かして（アゼルバイジャンの防災分野に関して）JICAとして貢献していきたいと思っております。

なお、JICAは我が国の知見・協力を活かした事業展開の一層の促進に向けて、従来の技術協力、円借款に加え、民間企業にJICAが出資・投資を行う海外投融資事業、公共部門と民間部門が互いのリソースを相互補完しながら公共サービスの提供を行うPPPインフラ事業と、民間企業との連携に努めてまいりました。こうした事業の発展によって、今後日本と貴国の民間企業の発展と、ODAでの資金協力や技術協力を具体的なものにする活動にも取り組んでいきたいと思っております。

## サファロフ・アゼルバイジャン経済産業省 次官

### 「アゼルバイジャンの経済・貿易・投資環境整備政策の現状と日本との経済協力」

尊敬する共同議長、尊敬する皆様。何よりもまず私たちの日本アゼルバイジャン経済合同会議の参加者の皆様に心からのご挨拶を申し上げたいと思います。そして、アゼルバイジャン側に皆様が示してくださいましたホスピタリティーに感謝したいと思います。

私たちは日本との協力の拡大を重視しております。そして、近年の日本とアゼルバイジャンの関係は発展しており、これは喜ばしいことであります。アゼルバイジャンと日本の政治の関係は極めてレベルの高いものです。友好とお互いの敬意が基にあり、全国的リーダー・ゲイダル・アリエフ、そしてアゼルバイジャン共和国大統領イリハム・アリエフの訪日、そして両国政府代表等のお互いの訪問も重要な役割を果たしております。また、アゼルバイジャンと日本の議会間のワーキンググループも二国間の関係発展に大きく寄与していると思います。

アゼルバイジャンと日本の関係の法的基盤はすでに調印済みの約 20 の文書です。そのうちの 10 文書は経済協力に関するもので、製造業、農業、建設、金融、エネルギーといった分野に関わっています。この基盤は大変強固なもので、両国の貿易経済関係の発展にも大きな意味を持っているわけです。

皆様よくご存知のように、経済界の代表者が参加する行事はアゼルバイジャンと日本との関係にとって非常に重要であります。協力の新しい分野の発展、また貿易経済関係の発展にも大きく寄与しているからであります。アゼルバイジャンと日本の企業は、いくつもの場に共に参加しているわけです。たとえば JETRO が主催した FOODEX、これは 2013 年 9 月のことです。AZPROMO というアゼルバイジャンの輸出投資支援基金も後援しました。また、2013 年の 11 月には、AZPROMO が支援してアゼルバイジャン・日本協会サクラ後援の美術会議も開催されました。

次は、貿易関係に話を移したいと思います。残念ながら両国の貿易高は、両国の経済力に見合ったものではありません。しかし、近年二国間の貿易高が伸びていることは喜ばしいことです。貿易の分野も多様化しています。両国間の貿易高の統計的な数字は、日本側から数字が紹介されましたが、我が国の統計数字は若干違っております。アゼルバイジャンの統計では、2013 年は日本とアゼルバイジャンの貿易高が、前年比 27.4% の増大でした。輸出入ともに伸びています。対日輸出が伸びている主な理由は、石油と石油製品そして加工済みアルミ合金等、その他のケミカル製品の輸出が再開されたことです。対日輸入では設備・機械の納入が増えました。

現在、アゼルバイジャンでは日本資本が参加した 19 の会社が業務をしています。サ

ービス業、通信、農業、建設の分野です。また、投資における協力も重要です。シャリホフ副首相も報告の中で指摘しました。私も数字を挙げたいと思います。1995～2012年の間に日本からアゼルバイジャン向け非石油セクターには 3,290 万ドルが投資されました。2012～2013 年には、37 億ドル以上の資金が投入されました。日本企業は国費で実行されているプロジェクト 3 件、総額 4 億 1,400 万ドルにコントラクターとして参加しています。

近年、アゼルバイジャンと日本の経済関係に拡充に大きな役割を果たすということで様々な活動が行われましたが、アゼルバイジャン共和国の対日経済協力委員会の役割も大きなものでした。シャリホフ副首相はアゼルバイジャン側の国家委員会の議長を務めています。シャリホフ氏は報告の中で近年アゼルバイジャンの経済が多様な形で発展しているということを示し上げました。

補足的な話になりますが、アゼルバイジャン経済は、非石油セクターが伸びていて、アゼルバイジャンと日本の貿易経済関係の増大に大いに寄与しています。様々な地域の発展も行われています。2012 年の 12 月に、発展コンセプト「アゼルバイジャン 2020 年：将来の展望」が採択されました。これは現在実行中で、新しい挑戦への系統だったアプローチ、未来への戦略的な眼差しを確定したものです。そして我が国発展の主たるプライオリティを規定したものです。それは持続可能な経済発展、高水準の社会福祉の実現、合理的な国家運営、法の支配、人権と自由の完全なる実現、国における市民社会の積極的なステータスの確保です。工業化と経済イノベーション化の拡大と進化が行われています。石油ガス工業、石油化学工業の近代化が今後も進められていくことになり、非石油工業の多様化、代替エネルギーの発展、食料安全保障の強化、流通サービス分野の拡大、貿易投資機構の整備、非石油分野の輸出の拡充も目標です。

アゼルバイジャンをこの地域の貿易の中心にするということが我が国の目標で、これから重点的に取り組む分野です。2020 年末には国民一人当たりの GDP を倍増させるということです。これは非石油セクターを主力にしてということです。GDP は毎年 7% 伸びることが私たちの計画です。アゼルバイジャンの良好な経済環境、政治的安定、着実な成長、そしてこれまで述べた経済発展の展望は、アゼルバイジャンと日本の互恵の協力の幅広いチャンスを保証しています。また今後も協力分野を拡大していくことの基礎になっているわけです。

アゼルバイジャンの発展の持続性を証明する数字をいくつか紹介したいと思います。直近の 10 年間で GDP は 3.2 倍伸びました。非石油セクターは 2.6 倍伸びました。投資は 6.5 倍になりました。ICT は 8.2 倍になりました。建設業は 5 倍伸びました。輸送・運輸分野は 2.5 倍伸びました。農業は 1.5 倍の成長を遂げました。インフラ、輸送、代替エネルギー、ツーリズム発展の大規模なプロジェクトが実行されています。農業に

においては、近代的な技術を使った集約型農業創設のための大規模な措置がとられています。

アゼルバイジャンにおいては、独立後、総額 1,720 億ドルの投資が行われました。そのうちの半分は外国投資です。アゼルバイジャンの国民一人当たりの外国投資は CIS 諸国で群を抜くものであります。世界経済フォーラムの報告書では、経済の競争力指数でアゼルバイジャンは第 39 位の地位を占めております。これは CIS の中でトップの地位です。国連の人権開発指数の報告書で高い評価を得ています。

アゼルバイジャンは国際経済協力に積極的に参加しています。重要な地域、多国籍プロジェクトのイニシアチヴを取っています。副首相の報告にあったように、我が国においては工業化政策が採用されています。今年は「産業年」と制定されており、これはとても象徴的です。我が国の大統領の政策に沿った形で、我が国には工業地域、工業センターがいくつも現在設立されています。様々な形での産業保護政策が取られています。こういったインダストリアルパークの建設は我が国にとって、これまでなかった経験です。このインダストリアルパークは、日本企業にもこれまで以上の大きなチャンスを提供します。バクーから 40km のところにスムガイトインダストリアルパークが現在建設されつつあります。これは投資プロジェクトとしても画期的です。魅力的な投資プロジェクトで、今後プレゼンテーションを行っていきます。アゼルバイジャンにおける日本企業の協力にインセンティブを与えるもので、今日と明日プレゼンテーションを行います。住友、三井、アサヒその他の日本企業の皆様は、すでにアゼルバイジャンでは活躍をしてくださっていますが、これまで以上に素晴らしい新しいレベルでわが国における活動を続けていただくことができます。バクー近郊には他の分野のテクノロジーパークも建設されることになっています。

我が国のこうした政策は日本との積極的な協力、ハイテク分野、先進的な分野において今後大いに協力するということがベースになっております。そして、両国の経済界の協力を活性化することが必要です。現時点における協力のレベルは、アゼルバイジャンにとっても日本にとっても満足のものではありませんので、様々なレベル、形式での会合を両国で行っていくべきだと思えます。我が国の経済的なチャンス、可能性というものがあります。我が国には皆様に披露できる成果がいくつもあります。我が国はダイナミックに転換、発展しておりますし、投資環境は良好であります。そして我が国の投資先としての魅力はますます伸びているわけであります。すでに申し上げた、様々な分野での両国のより積極的な協力を展開することが可能になると思えます。

## マメドフ・アゼルバイジャン共和国通信・情報技術省 次官 「情報技術分野における日本との協力の可能性」

尊敬する共同議長、委員会のみなさん。私の方からはアゼルバイジャン通信・情報技術省を代表致しまして皆様にご挨拶を申し上げ、ならびに合同会議の成功をお祈り申し上げます。

情報通信技術分野の相互協力におきまして、アゼルバイジャンと日本の二国間関係を改善するためのいい土壌がつけられておりまして、ポテンシャルが強化され、この分野の先端技術とイノベーションの導入が促進されております。近年、この ICT 部門というのは他の経済部門とともに加速的に発展しております。統計によると、この 10 年でアゼルバイジャンにおける ITC 総生産は 6 倍になりました。年平均成長率は 20～25%にもなります。速いスピードで情報を伝送できる全国ネットワークが開通しました。国内のインターネット接続の容量であります、毎秒 210GB となっております。

話がもうすでにありましたけれども、昨年 2 月 8 日にアゼルバイジャンでは初の通信衛星を打ち上げることができました。衛星打ち上げには、日本の三井住友銀行から融資をしていただきました。国の衛星通信産業を発展させるため、新しい衛星の打ち上げの準備が始められております。アゼルバイジャン国内で宇宙分野の生産が推進されております。また、頼もしいことに日本のメーカーの方々がこの分野に関心を示して下さっています。日本企業 2 社、NEC と三菱電機に対して、低軌道リモートセンシング衛星の生産、打ち上げに関する入札の提案がありました。将来的には、企業の方に第二の通信衛星の打ち上げに対して是非入札していただきたいと思っております。

市場が自由化されてきており、民間企業の占める割合が 67%から 80%になりましたが、アゼルバイジャン政府は、多くのインターネットサービスを開通いたしました。投資額は 30 億ドルを超え、うち 20%が外国投資になっております。昨年のデータによりますと、全人口の 70%がインターネットを利用しております。半数の学校が高速インターネットを接続しております。そして、「ブロードバンド・インターネット発展プロジェクト」が策定されております。実施期間は 2010～2016 年、規模は 4 億 5,000 万ドルです。このプロジェクトの基本構想ですが、各家庭がそれぞれブロードバンドにインターネットアクセスできるようにすることです。新しい NGN、ATC が設置されます。光ファイバーケーブルが国内すべての集落に敷かれる予定となっております。このプロジェクトでございますけれども、それぞれのユーザーに次のような容量を保障することになっております。村などにおきましては、5～10MB、都市の中心部では 30～100MB、バクー市におきましては 100MB～10GB になります。

このプロジェクトでは e サービスが国内のどこでも見られるようになります。例え

ばeラーニング、保健医療、電子商取引などを導入することになっております。そして2016年までにすべての集落、市町村で行政サービスにアクセスできるようになります。上記をふまえ、ブロードバンドネットワークの設置や、必要な機器の生産に協力していただいたり、アゼルバイジャン政府の支援のもと、日本とアゼルバイジャンの企業が共同でハイテク製品を生産したり、また新市場に進出するという事は、非常に有望で魅力的なポテンシャルが（ICT事業には）あるということを証明していると思います。

この分野におきましては、アゼルバイジャンの会社アズテレコムと日本の会社であるフジクラが試験用機器を光ケーブル回線のモニタリングのために導入いたしました。この通信情報技術分野における日本とアゼルバイジャンの友好関係は非常に伸びてきており、右肩上がりに成長しております。情報や意見の交換が推進されております。特にこの件に関しましては、国際協力機構 JICA 様のご功績を強調させていただきたいと思っております。毎年、アゼルバイジャンの専門家は研修を受けることができ、実力向上を図ることができるわけですが、これは日本の各地にある JICA センターにて講義を行っております。ご存知かもしれませんが、2013年2月、バクーで第1回日本アゼルバイジャン地域フォーラムが開催されました。

また、2013年12月10～12日にかけて、日本政府の主催で通信情報技術省アリ・アバソフ大臣他宇宙産業やハイテクパーク、そしてICT分野の代表団が日本を訪問させていただきました。アゼルバイジャン代表団はその際、日本のICTの先端企業を訪問致しました。また、政府関係者とも会談をさせていただきました。我々の企業に関して、本年におきまして、幅広い代表団に訪問いただきました。これはヨーロッパ等を担当されております代表団の方、池野正広本部長を代表とする代表団の方が本年2月12～15日にアゼルバイジャンを訪問いただきました。代表団はトルコ・中央アジア・コーカサス担当部署の責任者の方々、その他の企業の方々に参加をされました。

また、通信情報技術省は高橋大使にご出席をいただきまして、アゼルバイジャン・日本ICTワークショップを開催いたしました。ワークショップにおきましては、NECの方を紹介させていただきました。分野としては、通信やセキュリティ、先端技術、光ファイバーシステムなどの紹介が行われました。アゼルバイジャン側からは、約20の民間組織や企業が参加をいたしました。さらに、アズテレコムとNECのあいだでMOUが調印されました。今後の協力関係ということで、さらに作業が進められていくことになっております。また、新しい技術を導入するという方針についても検討がなされることになっております。

以上、様々列挙させていただきましたけれども、さらに通信やICTにおける相互協力に弾みをつけるためのいい土台になってきていると思っております。本日の会議が成功裏

に進められ、互恵関係を私たち両国の間に強化、発展させるための新たな一歩になると確信しております。また新しいプロジェクトが数多くありますので、是非日本の企業の方にもご参加いただきたいと思っております。これは宇宙分野や光ファイバー通信もございます。5億5,000万ドルという数字を出させていただきましたけれども、そのような規模のプロジェクトもございますので是非通信衛星の分野、そのほか通信分野でのプロジェクトに参加していただきたいと思っております。

## 山崎徳夫・伊藤忠商事(株) バクー事務所 所長

### 「スマート街路照明サービス

#### ～必要最低限の費用で最大限の省エネ、維持管理の効率化を実現～」

本日はインテリジェント・ライティングシステムのご紹介をさせていただく機会を頂きありがとうございます。

先ず簡単に弊社の紹介をさせていただきます。伊藤忠商事は 1858 年に創業者の伊藤忠兵衛により繊維問屋として発展しました。その後、第二次世界大戦後の 1949 年に現在と直接つながる伊藤忠商事株式会社が設立され、約 1 世紀半にわたり成長を続けてまいりました。現在は世界 66 か国に約 130 の拠点を持つ大手総合商社として、様々な分野において国内、輸出入、三国間取引のほか、事業投資など幅広いビジネスを展開しております。貴国アゼルバイジャンでは、伊藤忠グループとして 1996 年にバクーに駐在員事務所を開設し、ACG 海底油田開発プロジェクト、BTC パイプライン輸送プロジェクトへの投資参画、アゼルバイジャン原油の取引等のエネルギー分野、日本の ODA に基づく建設機械の納入等の他、給油機、自動車、化学品などのビジネスを展開しております。

さて本題に入りますが、街路灯は夜間人々の安全・安心の為に光を与えてくれる大切な設備ですが、街路灯用途に使われている電気代は、自治体全体の電気代の 30% を占めているといわれています。また、多額のメンテナンス費用、オペレーション費用が費やされています。そのような中、現状は状況把握や全体の管理体制がずさんな状態になっていることが多く、残念ながら、球切れや故障の状態が把握出来ずに放置されているのが実情です。またそのような状態は市民からの苦情で発見される事となり、その都度、交換作業が発生し、非効率的です。

たとえば東京のある区では 8,000 本の街路灯のうち、年間 1,000 本が球切れを起こします。そのうち約 600 本は役所の方が交代で夜間見回りをして発見するのですが、残りの 400 本は区民からの苦情電話で発見されます。

その際は早急な対応を求められ、翌日に 1 本球の交換の為に 高所作業車を出動させての作業となってしまいます。このような問題を解決するために、Diming (調光)、Monitoring (監視), ランプの在庫最適化が必要です。それが将来のスマートシティの柱になり、このシステムを活用したセキュリティカメラや各種センサーの組合せにより町全体のインフラを効率良く管理するのが理想です。

では、そのコンセプトを実現するには何が重要かということになります。1つはオペレーションとメンテナンスの効率を改善するために必要な情報を収集し、一元化して管理する方法。2つ目は、情報収集とコントロール信号の配信のための通信技術。

3つ目は、ランプの電圧、電流、エネルギー使用量などの情報を測定する機器、またコントロール信号を受けてきちんと動作する機器が必要となります。これらの組み合わせがスマートライティングの基本的な要素です。

伊藤忠が提供するスマート街路灯システムについて簡単にご説明いたします。これはシステムの全体図です。主に2つのハードウェアを追加します。まず1つはこちらの黒い箱です。これは通信ノード内蔵型の電子安定器です。このノード付安定器を各街路灯ポールに設置します。この安定器は各々のランプの電圧、電流、エネルギー使用量、温度など測定する機能とランプを調光、制御する機能をもっています。もう1つのハードウェアはこの灰色のスマートサーバーです。これは道路上の分電盤の中に設置します。スマートサーバーは既存の電力線を利用し、各街路灯につけたノードと通信します。各街路灯から集めた情報を3Gの無線回線でデータセンターに送ります。簡単な構成で先端技術を活用したシステムです。

次にこのシステムの特徴を4点説明いたします。まず遠隔でリアルタイムに各々の街路灯を調光、ON、OFFの制御ができることです。もちろん複数のランプを制御するオプションもあります。2つ目に遠隔で各々のランプの状態を監視することができます。このような機能で街路灯の運用、メンテナンス作業をより効率よく実現できます。住民からランプ故障の苦情を受ける前にリアルタイムに情報を把握し、対応できる体制が出来ます。3つ目の特徴は、このシステムは既存の電力線を使って各街路灯との通信を行うことです。したがって現地で新たに制御線を配線する必要はまったくありません。またこの電力通信はグローバルかつオープンなISO基準に従っていますので、既存のランプ、他のハードウェアを交換しなくてもこのシステムは使えるという点です。4つ目の重要な特徴はシステム利用者の事務所に高価なサーバ、IT設備を設けなくても、普通のパソコン、タブレット、スマートフォン上のブラウザさえあればなんでも設定せずにいつでもどこでもデータセンターにアクセスできるという点です。

これは弊社が提供するシステムのリアルタイム監視、制御画面です。役立つ情報が一目でわかりやすく表示されます。もう1つ重要な機能について説明いたします。街路灯が故障する原因を正しく理解せず、故障の原因を直せずにランプ交換した場合、また故障する恐れがあります。このシステムでは各ランプからとったデータの履歴を記録しています。この画面に表示されているように、複数パラメータの情報を同時に表示することによって故障したタイミングの前後で何が起きていたのかを分析することができます。上の表示はランプ故障が発生した際に迅速に対応するように、どこのランプが壊れたのかが地図上に表示されます。メールやSMSにも故障の内容が送られますので、優先順位を立てて最も効率の良い方法で対応できます。

下の表示はシステムでは自治体向けの様々なレポートが作られます。例えばこの画

面に表示されているのはこのシステムを使って、調光によって図ったエネルギー削減のグラフです。一目でシステムの効果が見えるようにしています。上の表示は各ランプの調光、ON・OFF 制御は予めスケジューリングすることができます。複数制御パターンを用意し、カレンダーの日に合わせて適切なパターンを適用できます。例えば週末に特別な調光パターンを適用したり、夏と冬の日に入り、日の出時間に合わせて違う調光パターンを適用したりすることもできます。

下の表示は地域毎にランプの寿命が一目で分かるような表示です。この図に見えるように、緑色で表示されているのは新しくつけたばかりのランプで、使用時間がまだ1,000 時間未満のランプの数です。この機能ではランプの交換時期が明確になり、適切なランプの在庫を管理することができ、無駄な在庫を持つことが不要になります。この技術（監視ソフト、PLC 技術、クラウドホスティング）は非常に安定した技術で、欧米を中心に 300 以上の市で既に使われています。伊藤忠も日本では環境省のプロジェクトとしてつくば市にこのシステムを導入しました。また船橋市、神戸市でも導入中です。海外ではシドニー市、シンガポール市、インドのチェンナイ市向けに実証実験を実施し、今後の展開に関わっています。また、ロシア、ウズベキスタンでも紹介を行っているところです。

最後になりますが、この3月にバクー市にて現在の街路灯の状況を確認し、このシステムを提案する予定です。バクー市では7万本の街路灯を管理しており、これらのランプを手動で管理していると聞いています。来年には European ゲーム大会が開催予定と聞いており、この機会に街路灯の管理を我々の提案する監視制御システムを採用していただければ、街路灯運用の効率がアップし、明るい町のイメージを作り大きな役割を果たすことが出来るものと期待しております。ご静聴ありがとうございました。

## バダロフ・アゼルバイジャン共和国代替・再生可能エネルギー庁 長官 「アゼルバイジャン共和国代替再生可能エネルギー庁の役割と今後の展望」

皆様、まずご挨拶から始めたいと思います。自己紹介させていただきますとアゼルバイジャン共和国の代替・再生可能エネルギー庁の長官であります。これは我が国におけます最も若い組織でありまして、アリエフ大統領の命により 2010 年に設立された機関であります。ということでまだ 3 年の歴史しか持っていないわけではありますが、既に成果はあげておりますので、この報告の中では、これまでの実績と今後の計画についてお話をしたいと思います。

まず、私たちが努めたのは国際的な経験を知り、学ぶということであります。ヨーロッパ諸国、アメリカ、アジア諸国の経験、実績がどのようなものであるかということをお勉強しました。そしてエネルギーの利用、代替・再生可能エネルギーに関しましては多くの国々でマイナスの結果も出ておりますので、我が国で繰り返さないようにすることが大切であります。どのように管理・運営していけばいいのかきちんと学んだわけがあります。

そして、ヨーロッパよりも安い価格でエネルギーを発電することが必要であります。料金体系ということも重要になるわけがあります。今の山崎さんの報告をとても興味深く聞きました。そして嬉しい報告でありました。我が国では同じような活動を行っているということを報告したいと思います。

現在の私たちの活動は 3 つの分野がメインの分野になっております。第一の分野はどの家も発電所であるというパイロットプロジェクトであります。総合スポーツ施設などいくつかの施設が代替エネルギーの発電を行い、そして販売も多くなっています。学校や幼稚園、そして医療機関に関しましては代替エネルギーで発電、その電力を供給されているところがいくつもあります。また、太陽エネルギー、風力エネルギー、バイオマスの発電所もありあります。60MW の風力発電所というのも、ドイツのテクノロジーを活用しているものでありますけれども、ドイツの専門家とともに自力で発電所を作りました。今年に関しましては 15MW を太陽光エネルギーを活用して発電する、そして 10MW をバイオマスで発電するということになっております。

エネルギー効率もとても重要なポイントであります。現在私達はゴブスタン市においてスマートネットを整備中でありまして、ハイブリッド発電所と並んで行われているものでありまして、コンプレックスの延長としてゴブスタン地区をスマートネットでカバーする計画があるわけです。とても重要な役割を担っているのがエネルギー効率ということになります。このゴブスタン地区においては完全自動化という形で発電、配電を行っていきます。1軒の家から始まってそれぞれの社会、公共設備、そして街

灯も完全に自動的にモニターするという事になっています。2013年に第1段階は終了しました。発電所は私たちのアゼルエネルギーと言うネットワークと特に仕事をしておりまして、発電、そういったものはすべてこのネットワークに任せてゴブスタン市にすべて供給しています。そしてこのプロジェクトでありますけれども近いうちに完成し、私たちアゼルバイジャンの力だけで維持していくということになります。

風力に関しても、太陽光に関しましても、発電に関してはたいへん大きなポテンシャルを持っております。そこでこの分野においては日本の企業と日本のテクノロジーの供給という形で協力することに大きな関心を持っております。

また日本企業との関係ということになりますと、私たちの役所はとても若いものになりますので、あまり日本の企業の皆様にあまり知られていないのかもしれませんが。ただ、私たちは大変に大きな将来性のある分野を管轄しているのであります。そしてアゼルバイジャンのみならず、日本にとっても将来性の大きなものであります。研究も今行っております。風力発電に関しては、他の国よりもより効率の高いものにするということがあります。私たちにとっても大きな意味を持っておりますカスピ海は、風の大きな余力を持っているからであります。そして、エネルギー効率に関してはとても大きな協力が可能になると思います。ゴブスタン地区一つだけを例にとりましても、正しいアプローチを取れば、つまりエネルギー効率に関して正しいアプローチを行えばゴブスタン市は、夏は1.5MWをエネルギーリソースによって発電、供給していきます。これをより正しく、エネルギーリソースを正しい形で活用する技術を利用すれば、完全にこの市、街一つ完全に自給自足ができるということになります。そしてこういった形のモデルをアゼルバイジャン全体に普及していくことが可能になります。代替エネルギーという分野においては日本企業のハイテクというものはすでに長年にわたって世界で認められております。アゼルバイジャンでも大いに活用することができると思います。

## バイラモフ・アゼルバイジャン共和国教育省 次官

### 「日本とアゼルバイジャンとの教育・人材育成分野での協力の可能性」

尊敬する共同議長、そして尊敬する委員の皆様、また尊敬するご列席の皆様。私の方からはあらためまして日本の皆様に対してこのように暖かく歓迎・歓待をしていただいておりますことに感謝申し上げます。今回このように日本での会議に参加できたことに大変嬉しく思っております。また、日本という偉大な文化・歴史を持つ国を訪問でき嬉しく思っております。

実は私どもの国の間では教育省同士での教育交流に関する具体的な協定が結ばれているわけではございませんが、両国関係は全般的に非常に伸びてきており、教育システムに関しても日本に多大な貢献をしてもらっております。日本政府のアゼルバイジャンに対する無償支援によりまして教育機関の建設や修理のプロジェクトや教育制度支援プロジェクト、大学の学生や教員の交換プログラム等が実施されております。

2007～2011年に日本政府とゲイダル・アリエフ財団から金融支援を受けまして教育省とユネスコで、大型プロジェクトである「アゼルバイジャン職業教育の近代化」を実施いたしました。このプロジェクトはアゼルバイジャンの職業技術教育制度の近代化を目指すものであり、持続可能な発展と市場経済の要求に合った人材育成をすることです。具体的な分野はホテル・観光業、情報通信技術、ICT等です。そしてまた、実力向上職業技術教育専門センターの設置などが行われるプロジェクトでした。

2006～2013年にかけて教育関係の10以上のプロジェクトが、日本政府のグラントプログラム、いわゆる「草の根・人間の安全保障無償資金協力」の枠内で実施されました。このプログラムは主に地方を対象としていて、中等技術学校や幼稚園等の建設や改修および暖房や教育設備の設置等です。

日本政府はさらに世界銀行のアゼルバイジャン教育発展プロジェクトの融資にも大きな役割を果たしていただいております。この蓄積されたアゼルバイジャンの教育改革は、主な課題として教育の国際化、改革を推進するということになっていきますので、ぜひ日本との協力関係を教育分野そして高等職業技術教育の分野で発展させたいと思っております。

「2007～2015年アゼルバイジャン青年海外協力プログラム」というプログラムがございまして、その対象となっているのは世界の544の大学ですが、そのうち40大学が日本の大学です。つまり、日本の大学を非常に高く評価しているということですが、残念ながら他の国と比べましても、日本で勉強するアゼルバイジャンの学生の人数は高いレベルではないということですが、もっと人数を増やせるのではないかと考えております。この状況を改善するためには、ぜひ日本の大学の方々に、アゼルバイジャン

に進出、または具体的なプレゼンスを高めていただきたいと思います。日本側からの支援がいただけますと、教育機関のレベルの様々な分野で発展させることができるのではないかと考えております。たとえば分野としては技術、農業、情報技術が考えられると考えております。人材開発と両国の文化交流の深化に大きく寄与できるような提案をこれからもしていきたいと思っております。

次に高等教育の分野においては、いわゆる「ダブル・ディグリー・プログラム」の提案が可能だと思っております。学士から博士課程までです。さらに教員のレベルアップ、アゼルバイジャンの大学の制度的発展プロジェクトを政府の支援のもとで行っていきたいと考えております。更に、電子環境や情報システムを構築したり、品質保証制度を設置するといった分野でも協力ができると思っております。学生や教員に関する情報収集、分析をシステム管理するということによりまして、より質の高い大学教育を行い、より詳しい情報に基づく経営決定を行うことができるようになります。

職業技術教育の分野は、教育改革の中でも優先分野となっております。改革は政府に持続可能な社会経済的発展を保障するものであります。職業技術教育専門センターの設置を考えているわけですが、是非お越しいただければありがたいと思っております。職業訓練の分野は、自動車整備、情報通信技術の専門家育成となっております。このプロジェクトというのは、優れた人材をさまざまな分野で育成するためのものがありますけれども、教育プログラムを見直しながら、また市場の要求に見合った人材の育成をしたいと考えております。そしてこのセンターには近代的な設備を導入し、教育用の電子資料やサイトを学生または教職員のために開通していくということが考えられております。ここで申し上げているのは、決してファイナンシャルですとか、質的・技術的な支援のみを申し上げているわけではございません。私たちは是非日本の豊かな経験を活用させていただきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

**足立誠・川重テクノロジー㈱システム開発事業部 IT システム部**  
**谷義隆・国際計測機器㈱試験器営業部**  
**報告「日本防災プラットフォーム個別検討会プロジェクト」**

本日、このような場にて私たちの活動についてご報告することは、大変光栄に思います。今回、この機会をくださいました、日本アゼルバイジャン経済委員会事務局の皆様には厚くお礼を申し上げます。

さて、本日は時間が余りありませんので、私たちの報告内容といたしまして、2点ほど申し上げたく存じます。1つは、もともとアゼルバイジャン共和国非常事態省から頂戴したお話の我々側の取り組み内容。もう1つは、今後の対応と展望です。

まず最初に経緯をご説明致しますと、もともと私が2010年くらいに、地元神戸の国際復興プラットフォーム（IRP）という、国連イニシアチヴの防災アドボカシー機関で働いていた時に、アジア防災会議で来日していたラサード・ガシムザードと知り合いました。彼はアゼルバイジャン非常事態省国際部の部長です。彼と個人的に親しくなりまして、それから友情を育んできております。彼とはずっとメールでやり取りをしていたのですが、一昨年の9月に個人的にメールを受け、「非常事態省として取り組みたい防災プロジェクトがいくつかあるが、なかなか日本政府からの返事がないので、できれば民間企業の方からいろいろ動いていただけないだろうか」という個人的な依頼を受けました。私は国連機関や議会で働いていた経験を生かして、いろいろなところに相談を持ちかけました。昨年1月に内閣府主催のアジア防災会議が神戸でありまして、その際にニヤジ・ザマノフ氏とガシムザード氏が来日しましたので、日本の防災技術を持つ民間企業、大成建設や清水建設などの大手スーパーゼネコンで免震、耐震技術、それから早期警戒システムなどを見ていただき、東京大学では、災害時に避難経路を研究している先端科学技術研究センターで研究内容を見ていただきました。

そして、私も今は民間企業の立場ですので、一民間企業だけでは動けないという事情があり、いろいろな民間企業と一緒にチームを組んで案件に取り組もうと思ひ、大成建設、日立製作所と一緒に動いていきたいと思っております。日本語の資料を十分にまだ英語化までできてないので、言葉だけで説明しますと、例えば、非常事態省が取り組みたい内容の一つとして、災害時の早期警戒システムがあると聞いています。日本には、この図のようなシステムを販売しているところがいくつかあります。つまり、衛星画像を分析して、災害対策室で情報に加工し、政府や病院、道路、国民の携帯電話に届けるサービスです。こういった一連の流れをパッケージとしてアゼルバイジャンで展開できるなら、今後起きうる自然災害の被害を軽減できる1つの有効策になるでしょう。つまり、経済成長の妨げになる自然災害におけるリスクを軽減でき

るのでないかと思えます。

また、地震の実験施設もご興味があると思えますが、例えば清水建設はこの近くにこのような研究施設を持っています。これも日本語ばかりで申し訳ないですが、清水建設は去年、約 100 億円かけて風洞や、地震振動、材料実験、岩石実験、耐火実験などができる施設を作りました。特に、大型構造実験では、これまで日本で起きた地震を再現し、どうしたら建築物が地震につよくなるかなどの実験がより詳細にできるようになりました。私の横にいる国際計測機器も、そういった実験機器を販売している会社です。こうした実験施設は日本の大手建築会社であればどこでも持っていますし、日本政府も兵庫県に日本一大きな実験施設を持っています。それらは全て日本の防災技術を集めた代物です。

こういった各民間企業はいろいろな防災技術をもっていますが、1社だけでは海外展開できないわけです。国交省が、防災技術の海外展開に関する新組織を立ち上げる準備に入り、現在は防災技術を海外展開したい日本企業約 170 社が参加意向を示しています。私は最初からこの新組織の組織原案や運営ルール作りに関わっています。来年3月の終わりくらいまでには、1つの新しい組織が出来上がることになっております。この組織というのは、日本の防災技術の窓口であり、外国政府が例えば自国の防災計画や街づくり、災害対策を日本とやりたい場合、この組織が窓口になり、個別プロジェクトを動かしていきます。その個別プロジェクトの中には、日本政府機関がいる場合もありますし、いない場合もあります。

4月には **Japan Disaster Risk Management Platform** が立ち上がります。だいたい日本企業 200 社が集まっている組織です。既に個別のプロジェクトの中には始まっているものもありまして、例えばミャンマー、トルコ、タイ、ベトナム、インドネシアなどでは二国間のワークショップをやっております。そこで日本の防災技術を使っていきましょうということで、既にミーティングは何回か開催されており、これからもワークショップが行われる予定です。

一昨年、ガシムザード氏から非常事態省が取り組みたい内容を聞かされた私は、それを取り組める企業、例えば日立や大成建設に声をかけ、民間企業だけのチームを作りましたが、今後はこの組織の個別プロジェクトとして推進していくと、民間企業だけでなく、日本政府機関や研究機関も含んだチーム・ジャパンを形成することが可能になり、もっとしっかりと貴国の防災促進に貢献できるのではないかと考えます。我々側は着実に協力体制が出来つつあります。最後に、私達は、ここにいらっしゃる皆様と是非一緒に貴国の経済発展を妨げるリスクに立ち向かっていきたいと思えますので、今後ともよろしくお願い致します。ありがとうございました。

## ナシロフ・アゼルバイジャン国営石油会社(SOCAR) 副社長 「SOCAR と日本企業との協力」

日本の皆様、ホスト側の皆様に感謝申し上げたいと思います。この会議を効率よく行うことができることに感謝をしたいと思います。そして第8回日本アゼルバイジャン経済合同会議参加者の皆様に大きな満足を持って挨拶をしたいと思います。日本とアゼルバイジャンの間には豊かな長年の歴史があり深い文化的な絆があるということをご私達全員が認識しております。私達は戦略的なパートナーであり、様々な国際組織において多国籍間フォーマットで良い協力を行っているわけであります。

アゼルバイジャンで仕事している方であればよくお分かり頂いていると思いますが、アゼルバイジャンという国は炭化水素を人間が活用するというのを初めて行った国であります。1886年に初めてこのボーリングが行われました。アメリカのペンシルバニアで石油ボーリングが行われる前にアゼルバイジャンで行われたわけです。最初のパイプライン、最初の石油タンカー、最初のオフショアのボーリングというのは、これは全て1990年代になりますけれども、全てアゼルバイジャンで行われたものであります。そしてノーベルの遺産というものを我が国が継承したわけであります。1949年以降、日本のノーベル賞受賞者でありますけれども、7人の日本人がノーベル化学賞を受賞したわけであります。そしてノーベルでありますけれども昔のアゼルバイジャンで仕事をしたわけであります。

さて、1994年カスピ海のアゼル領域のアゼリ・チラグ・ギユネシリの共同探査開発生産協定が可決されました。これは「Contract of Century」というもので、日本とアゼルバイジャンがエネルギープロジェクト実現の幅を広げたことにもなったわけです。現在よくご存知のように日本のINPEXと伊藤忠商事はアゼリ・チラグ・ギユネシリで共同探査開発生産協定の枠内で成功しているわけであります。また、INPEXと伊藤忠は他のパートナー企業と共にアゼリ・チラグ・ギユネシリの大変深いところにあるガス鉱床開発プロジェクトに参加しています。日本企業に関しましては技術、機械の提供で今まで以上の大きなチャンスを得ることになると思います。

さて、2006年にBTC、バクー～トビリシ～ジェイハン石油パイプラインが稼働しました。これによってアゼルバイジャンはグルジア経由でトルコの地中海港、ジェイハンまでのパイプラインでの原油輸出を始めることができたわけであります。このパイプラインは地中海地域における唯一のパイプラインであったのです。世界にパイプラインで原油を供給する初めてのパイプであります。OPECでなく、イランでもアラブ諸国でもなく、ロシアでもない石油を輸送する初めてのパイプラインでありました。INPEXと伊藤忠という日本の企業はBTCパイプラインにおいてもパートナーであるこ

とを指摘したいと思います。

アゼルバイジャンの石油ガスの最新の成果ですが、これはシャフデニスの第二フェーズ開発についての最終的な投資決定であります。昨年12月にコンソーシアムを決定したわけであり、我が国の副首相も先ほど指摘したように、シャフデニス2、南カフカスパイプライン、TANAP、TAPを含めた4つのプロジェクトですが、この総額は450億ドル以上になるわけであり、従って日本企業にとってはとても大きな展望が開けていると思います。この4つのプロジェクト全てにおいて日本企業の参加が有望視されています。

さて、プライオリティとなりますと、ぜひ皆様に思い出していただきたいのが、SOCARのアゼルバイジャンにおけるペトロケミカル工場の建設です。投資総額が144億ドルになり、2020年代半ばに完成することになっております。プロジェクトの最初の段階でありますけれども、日本の複数の企業と話し合いが行われています。JGC、東洋エンジニアリング、千代田化工、丸紅、伊藤忠、三菱、横河電機、三菱電機、東芝、荏原、日立、神戸製鋼、住友、川崎重工、新日本造機といった企業との話し合いを進めているわけであり、このプロジェクトは大変規模が大きいわけであり、SOCARと日本の企業とが次の分野で日本の企業との互恵の協力を重視しております。建設、ユーティリティ、土木工事、設備納入、自動化、ファイナンシャルサポート、そして完成品の購入であります。

日本企業との今後の協力計画ですが、トルコのイズミル近郊のスタールの工場でも日本との協力が視野に入れられています。また、協力の大きなポテンシャルとなると、アゼルヒミヤのポリプロピレン、ポリエチレンに大きなポテンシャルがあります。エチレンプロピレン工場、スチームジェネレーション工場の近代化が大きな目玉であります。こういったものすべて日本とアゼルバイジャン関係が成長軌道にあることを裏付けると言えるでしょう。これは日本、アゼルバイジャン両国の戦略的な利益にもなっています。

私自身についてであります、一番最近日本、東京を訪問したのは2002年であり、私はアゼルバイジャンのサッカー連盟の代表でもあり、ワールドカップでも日本を訪問しました。そして今年のブラジルでのワールドカップでも日本人は参加します。そこで第一試合では日本を応援したいと思います。

## Cooperation of SOCAR with Japanese companies



### OIL-GAS PROCESSING & PETROCHEMICAL COMPLEX



The State Oil Company of the Republic of Azerbaijan (SOCAR) is developing an Oil-Gas Processing and Petrochemical Complex (OGPC) Project to be built in the Garadag district at approx. 60 km away from Baku in Azerbaijan.

The OGPC will comprise of the following main blocks:

- Gas Processing Plant (GPP)
- Refinery (REF)
- Petrochemical Plant (PETR)
- Central Utilities and Off-sites System (CUOS)



Considering the size and complexity of the Project, the OGPC complex will be implemented using a staged approach as a way to make the execution more manageable.



To meet domestic demand for world-standard oil & gas processing and petrochemical products;



To increase the export potential of the country;



To improve the environmental situation of Baku and Sumgait;



To transform Azerbaijan into an important regional oil refining and petrochemical center;

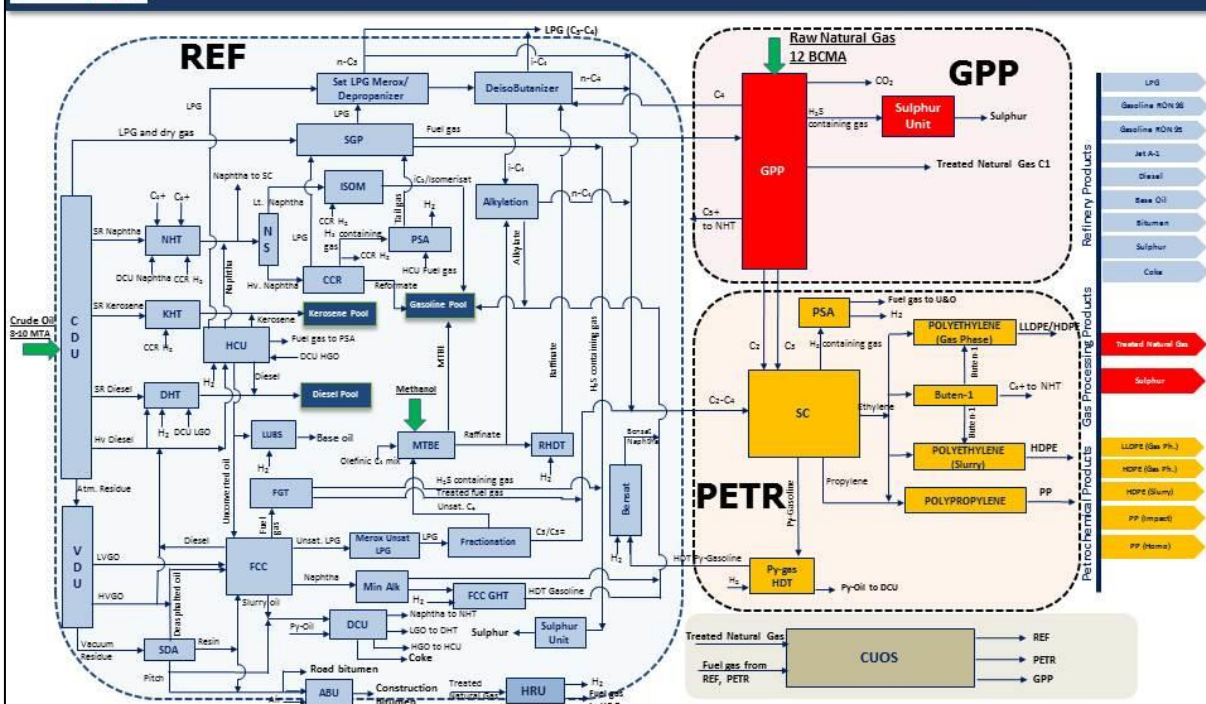


Use opportunity to transform Azerbaijan into an attractive air transport center for transcontinental and transatlantic flights;



To provide strong technical and technological breakthrough in oil & gas processing and petrochemical industry.

Oil Gas Processing and Petrochemical Complex



Oil Gas Processing and Petrochemical Complex

- Market studies, preliminary bankability study



- Feasibility, Optimization Studies



- Financial advisor



- Legal advisor



- Licensors Evaluation and Selection



- GPP Pre-FEED / FEED development



- PMC function for GPP FEED



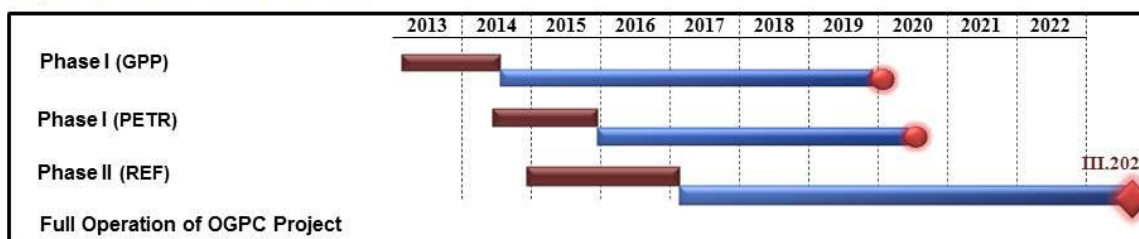
- Environmental Consultant



Oil Gas Processing and Petrochemical Complex

5

High-level execution schedule:



Overall economics:

Required CAPEX (Class 5 estimate)	12.3 billion US\$
Total Investment Cost (including interest payments)	14.4 billion US\$
Internal Rate of Return	13 %
Payback period	7 years

Oil Gas Processing and Petrochemical Complex

6



## Current cooperation with Japanese companies



During the initial phase of OGPC Project the meetings were held and a certain level of collaboration was developed with renowned Japanese Companies:

**Design, Engineering & Construction companies:** *JGC, TOYO, CHIYODA, Marubeni,*

**Trading Houses:** *ITOCHU Corp, MITSUI & Co, MITSUBISHI Corp,*

### Equipment suppliers:

Automation & Control Systems: *YOKOGAWA,*

Electrical (Motors and Drives): *MITSUBISHI Electrical, TMEIC, TOSHIBA,*

Columns, Exchangers, Expanders: *CHIYODA, EBARA / ELLIOTT, HITACHI, JAPAN Steel Works, KOBE STEEL/KOBELCO, SUMITOMO,*

Compressors: *EBARA/ELLIOTT, HITACHI, KAWASAKI HI, KOBE STEEL/KOBELCO, MITSUBISHI HI, MITSUI,*

Turbines: *MITSUBISHI HI, SHIN NIPPON Machinery,*

Oil Gas Processing and Petrochemical Complex

7



## Potential cooperation with Japanese companies



Given the importance and scale of the OGPC Project, it is necessary to establish mutually beneficial cooperative relations with the Japanese companies.

### Areas of potential cooperation:

Future engineering and construction (EPC) activities: *Chiyoda, JGC, Marubeni, TOYO, etc.*

Equipment suppliers: *FUJI Electric, FUKUI SEISAKUSHO, KITZ, MOTOYAMA Eng. Works, NAGAOKA IC, SASAKURA, TOMOE TRITEC, UBE Industries, etc.*

Automation Contractor: *YOKOGAWA, etc.*

Product off-take, equipment supply and co-financing support: *ITOCHU Corp, MITSUI & Co, MITSUBISHI Corp, Marubeni Corp, etc.*

Potential financial supports: *Japan Bank for International Cooperation (JBIC), Mizuho UFJ Corp, Sumitomo-Mitsui Banking Corp, Bank of Tokyo Mitsubishi, etc.*

Oil Gas Processing and Petrochemical Complex

8

**For any additional questions or queries,  
please contact:**

**Mr. Emil Alkhasli**

Deputy Director, OGPC Project Directorate, SOCAR  
Email: [Emil.Alkhasli@socar.az](mailto:Emil.Alkhasli@socar.az)

**Mr. Orkhan Jafarov**

Head of Project Organization and Contracts Division  
OGPC Project Directorate, SOCAR  
Email: [Orkhanf.Jafarov@socar.az](mailto:Orkhanf.Jafarov@socar.az)

**Mr. Ruslan Latifov**

Head of Marketing and Logistics Division  
OGPC Project Directorate, SOCAR  
Email: [Ruslan.Latifov@socar.az](mailto:Ruslan.Latifov@socar.az)



**“Azerikimya” products**

- Low-density polyethylene
- Propylene
- Butylene, butadiene fraction
- Heavy resin
- Pyrolysis resin
- Isopropyl alcohol



## Steam Generating Complex (SGC)

- Mitsubishi Heavy Industries MHI

An inspection of two boilers was carried out for 10 years of continuous performance. It is planned to hold analogic works for two steam turbines with replacement of worn-out parts.



- Mitsubishi Electrical Corporation

It is planned to carry out inspection works for two generators with replacement of worn-out parts.



- Yokogawa Electric Corporation

The company partially modernized the Distribution Control System (DCS) of SGC. It's planned to continue the works on modernization and replacement of obsolete electronic devices.

11

## Polypropylene and Polyethylene

- Japan Steel Works

The company on the basis of a tender concluded a contract and will supply extruder for SOCAR's new project on production of polypropylene in Sumgait.



- Yokogawa Electric Corporation

The company participates at a tender on supply of Distribution Control Systems (DCS) for SOCAR's new projects on production of polypropylene and polyethylene (HDPE) in Sumgait.



12

### Modernization and new projects

- Complex technological modernization of Ethylene-Propylene plant with account of application of new types of raw materials, increase of Polyethylene (LDPE) production power, decrease of energy consumption, increase of exploitation safety and etc.
  
- Increase of electric power generation at the SGC with application of new steam turbines and generators
  
- Full automatization and implementation of DCS at the Ethylene-Propylene plant



13

**For any additional questions or queries,  
please contact:**

**Mr. Mukhtar Babayev**  
"Azerikimya" Production Union  
Chairman of Supervisory Council

**Mr. Rza Rzayev**  
"Kimyalayiha" Institute  
Director

E-mail: [rzaa.rzayev@socar.az](mailto:rzaa.rzayev@socar.az)  
Tel: + 994 12 5212516  
Fax: + 994 12 5212544

14

SOCAR Trading SA collaborated with Japanese companies Inpex and Itochu:

- Purchased 600,000 bbls of Azeri Light Crude in 2012 from Inpex;
- Sold 730,000 bbls of Azeri Light Crude in 2013 to Itochu.

SOCAR Trading Singapore delivered 200,000 bbls Azeri Crude oil to Japan in 2012; The cargo was delivered to oil refinery of Japanese company Taiyo Oil.

During 2012-2013 SOCAR Trading Singapore delivered to Japan:

- 100,000 mt of ESPO Blend to JX Nippon Oil & Energy Corporation
- 40,000 mt of Oman crude oil
- 313,000 mt of Naphtha

15

- SOCAR is managing the Carbamide plant construction project where Samsung Engineering Co. Ltd (South Korea) is acting as general Engineering, Procurement and Construction (EPC) Contractor. The plant is scheduled to be mechanically completed by end of 2016 after which it will be commissioned, tested and handed over to SOCAR for operation.
- During the project execution a significant number of equipment vendors from various countries will be participating in the supply of required equipment and materials. Among those vendor candidates, which will potentially be supplying required equipment and materials, there are such Japanese companies as Mitsubishi Heavy Industries, Kobelco, Hitachi, Chiyoda Corporation, Shin Nippon Machinery, JFE Corporation, Nippon Steel & Sumitomo Metal Corporation, etc. The type of equipment and bulk materials, which these companies may be delivering is the following: centrifugal compressors (including natural gas, CO<sub>2</sub>, syngas, ammonia, process air), primary reformer, ammonia converter, steam turbine generator, reactors, pumps, piping and fittings, etc.
- Furthermore, in the future, once the plant is handed over to SOCAR for operation, some Japanese companies may appear among potential off-takers of the granulated urea product.

16

### Japanese companies have been represented in the Azerbaijan oil and gas sector within the PSA on the Azeri-Chirag-Guneshli field

#### Azeri-Chirag-Guneshli:

Date of the project - 20.09.1994

Effective date of the project – 12.12.1994

Overall amount of direct investments on the project – \$32 986,2 mln

INPEX share – 10, 9644%

Amount of direct investment – \$3 616,7 mln

Bonus, acreage payments and dividends – \$29,8 mln

ITOCHU share – 4, 2986%

Amount of direct investment– \$1 417,9 mln

Bonus, acreage payments and dividends – \$11,7 mln

### ACG Deep Gas

ACG partners (including Inpex and Itochu) are currently negotiating ACG deep gas (non-associated gas project) where the additional opportunities to use Japanese technology, services and supplies will exist.

### Cooperation on pipeline transportation

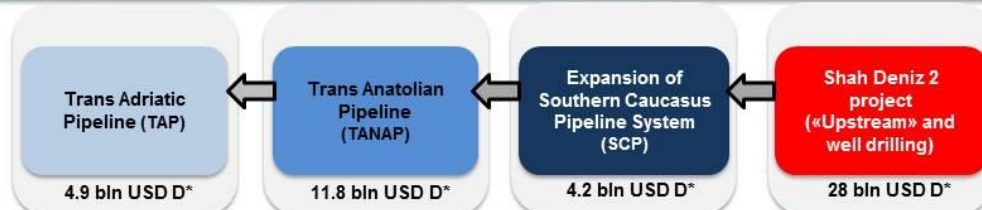
BTC – \$294,8 mln, including:

INPEX – \$124,9 mln (share – 2,5%)

ITOCHU – \$169,9 mln (share – 3,4%)

Bank Tokyo-Mitsubishi is a financial consultant of TANAP pipeline company. Japanese companies can participate at the future tenders on supply of pipes and compressor equipment for the TANAP pipeline.

17



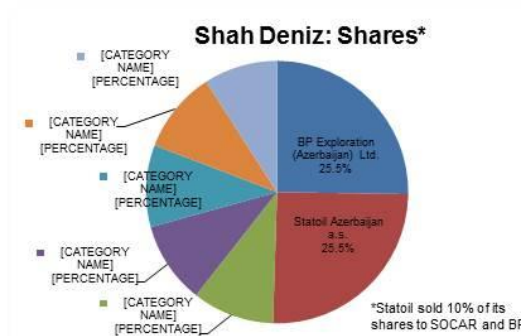
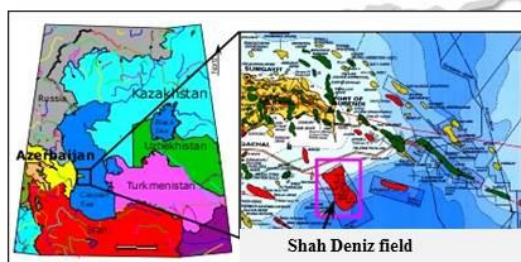
\* Forecasted capital costs

Source: BP, SCPC, TANAP, TAP

Southern Gas Corridor

18

- SOCAR and International Oil Companies signed Product Sharing Agreement (PSA) for exploration, development and production of Shah Deniz perspective area in the Azerbaijani sector of the Caspian Sea on 4<sup>th</sup> June, 1996;
- The field is located in 100km southeastward Baku, on the depths ranging from 50-500m of deep water shelf;
- Reserves: over 1.2 trillion m<sup>3</sup> of gas;
- Stage-1 started in 2006;
- 6 wells drilled, a platform, an onshore terminal constructed and a pipeline of 700 km in length laid to Turkey;
- Currently:
  - 94,47 million barrels of condensate and 45,4 bcm of gas produced;
  - 16 bcm of gas sold to Azerbaijan, 24,4 bcm of gas sold to Turkey, 3,4 bcm of gas sold to Georgia and 0,9 bcm of gas sold to BTC;



Source: BP, SOCAR

Southern Gas Corridor

19

- Shah Deniz Stage-2 (SD2) or Full Field Development (FFD) is one of the largest and the most complex projects in the world.
- The first submarine infrastructure in the Caspian Sea (subsea development)
- Currently **7 wells drilled** and drilling of more **19 wells is expected**.
- SD2 will add another 16 bcm to about 9 bcm of gas produced annually from Shah Deniz Stage-1.
- Gas is delivered through subsea pipeline to Sangachal Terminal and further to Turkey through the Southern Caucasus Pipeline.
- **6 bcm** of gas produced from SD2 will be supplied to Turkey and **10 bcm** to the European consumers, thereby a project serving strategic interests related to sustainable energy security of the European countries, as well as Georgia and Turkey will be implemented.
- Overall investments: capital costs represent about **\$28 bln**, operational costs \$8.5 bln.
- Final Investment Decision was made at the end of 2013.
- Initial gas export to Turkey is planned to 2018, and to Europe in 2019.
- Gas Sales Agreements were signed on 19 September, 2013 with 9 European companies.



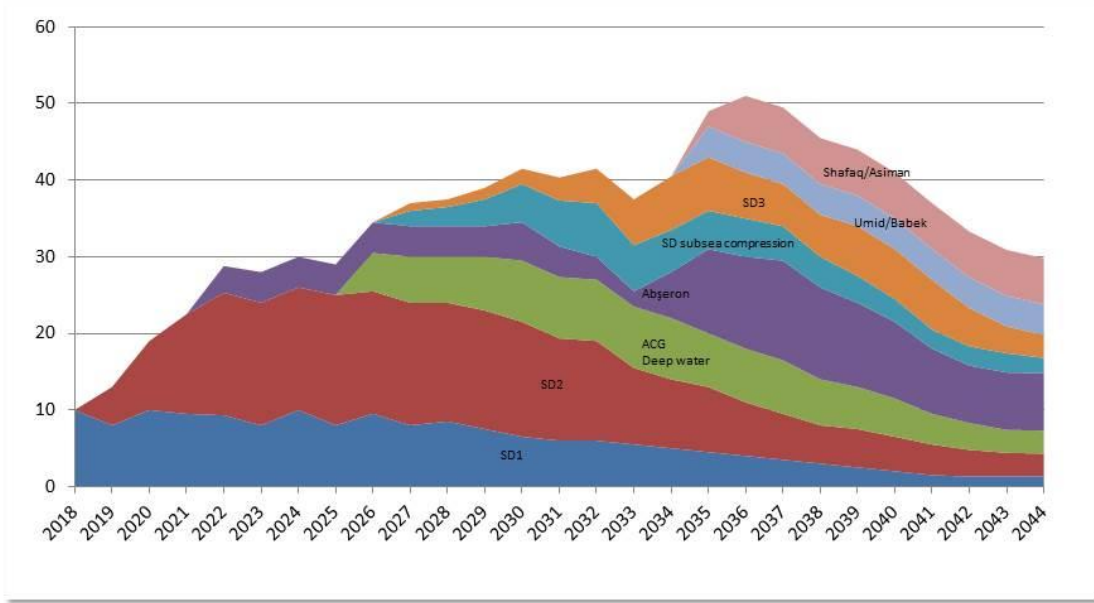
Source: SOCAR, BP

Southern Gas Corridor

20



### Development of gas export potential in case FID on SD Stage-2 is made

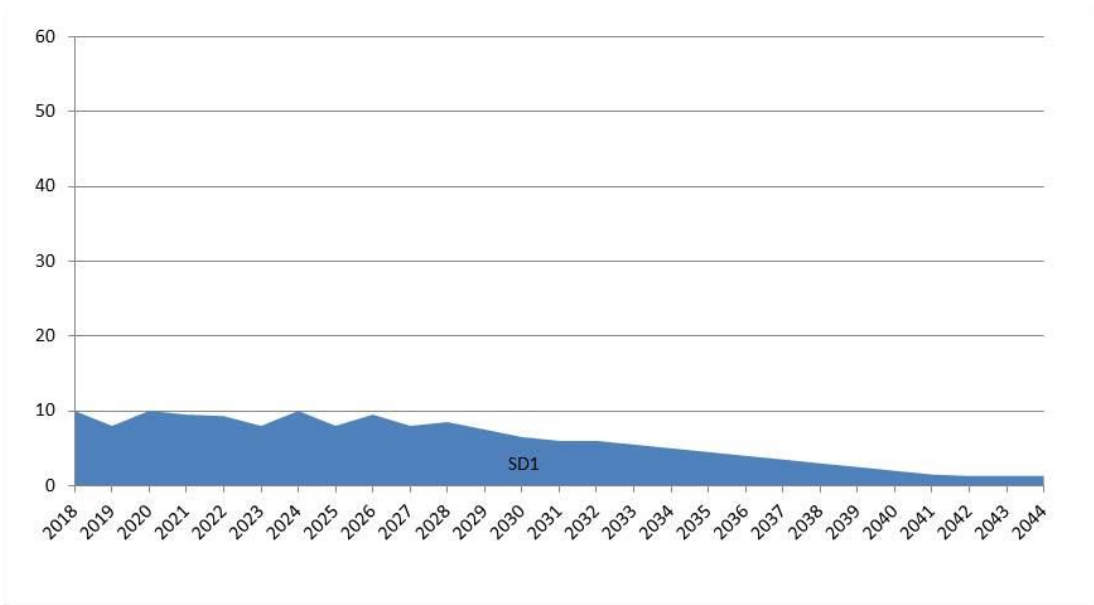


Southern Gas Corridor

21



### Development of gas export potential in case FID on SD Stage-2 is not made



Southern Gas Corridor

22

## ママドフ・スムガイト化学インダストリアルパーク 副社長 「スムガイト化学インダストリアルパークについて」

私の方からはスムガイト化学インダストリアルパークに関してお話申し上げたいと思います。今この件に関しては国内でも非常に優先されております。スムガイトとは町の名前ですけれども、もともと化学が発展してきた町でございます。

町に関して申し上げたいと思います。1949年に市として設置されました。1980年代末までソ連の石油化学製品の40%を生産していた町でもあります。このインダストリアルパークは大統領令により設置されたものです。既に新しい段階として開発が進められてきております。このスムガイトはバクーから非常に近いということで立地条件も大変良いです。バクー―ロストフ幹線道路の道路にも近いことが挙げられます。その他、鉄道網にも近いという状況にもなっておりますし、港も近いことが挙げられます。

この具体的設立目的ですが、工業生産競争率を上げる、イノベーション対策を用いる、そして企業活動の促進、支援をする、そして非石油部門の安定成長を図る、産業分野の雇用を拡大するということでございます。外国投資家の皆様に対しましてはグリーンフィールドへの新しいアプローチができるように拡大していくことでもあります。

次に先程も申し上げましたが立地条件が非常に良く、アゼルバイジャン自体がヨーロッパとアジアの架け橋であり、シルクロードが通っていた国でもあります。アゼルバイジャンは地理的に考えてもロシアやカザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、イランなどの市場が近いので港を通してペルシャやグルジア、黒海の方へ通じることができます。そしてトルコを通してヨーロッパへ出ることもできます。

今バクー～トビリシ～カルのインフラ整備が検討されております。ここが開発されますとヨーロッパから東アジアへの回廊が開設されることとなります。ですので、輸送費を削減できるようになります。

二点目に、私どものパークの非常に魅力的なところはインフラが非常に整備されているということです。既にこの敷地においては必要なインフラが整備されておりますし、建設も進められております。例えば高い高品質の電力を供給することができますし、また二か所ガス分配ステーションの予定地がございます。さらに鉄道へのアプローチが西、北の方へ開けています。また、オープンタイプ、クローズタイプの2つの大きな倉庫があり、それぞれが1万㎡の広さです。その他、飲料水、産業用、工場用水の保管所もございます。この敷地内には幅広い社会的スペースも構築されることになっております。これは日本を含める8つの先進国の経験を取り入れております。

これはパークということですので、やはり社会的に、生産のみならずその他の休憩できるスペースも必要です。福祉の分野が必要ということでもあります。22階の建物ができまして、ここには例えば会議室1万㎡がございまして、です。このテクノパークは地域全体の産業の拠点にもなっていくと思います。その他にも職業訓練校も建設されることになっております。ワークショップなども行えます。近代的なラボ・研究室の建設、また学生用の寮も建設されることになっておりますし、エンジニア、技術者のためのホテル、宿泊施設の建設も予定されております。その他、幼稚園建設も検討されております。

次に、アゼルヒミヤという会社が近くにありますので原材料が確保できます。今後の生産基盤になるということもございます。ご存知の通りアゼルバイジャンは石油ガスのみならず、石油精製が進んでいる国でもあります。こういったことを考えますとテクノパークは原材料の点から見ても非常に魅力的でございます。

次に、先ほど申しました通り、私たちのテクノパークは生産発展のために十分な原材料と合わせて人材も揃えることができるというわけです。具体的に上げますと、職業訓練高校建設も予定されております。大学等、学術研究所と協力致しまして訓練を行っていくこととなっております。例えば大学名を挙げますと、カフカス大学やスムガイト国立大学、マメダリエフ記念石油化学大学、その他諸々の大学が市内にありますので、協力関係を図っていくことができます。トレーニング・学習センターも検討されております。ですので、化学、石油化学分野での人材は非常に重要視されております。

次に魅力的な観点としては、非常に良いサービスを受けることができるということでもあります。例えばビザ申請の簡素化、ライセンス取得、許認可、労働許可を受けるなどの分野のハードルが下がると思います。またその他の手続き、事務関係のサポートがされます。

強調させていただきたいことは労力があるということでございます。アゼルバイジャンにおきましてはいわゆる労力コストの効果ということで申し上げたいと思うのですが、安価であるということではございません。非常に質の高い労力、労働者がいるということです。ですから、アゼルバイジャンで生産を行うということは非常に労働生産性が高いということになります。要するに良い労働力を得ることができるということです。ですので、企業の方々におかれましてもこちらの生産開始ということに関しては十分に人材が期待できると思います。

今後のインダストリアルパークの発展に対していろいろな優遇処置がとられております。今日の優遇処置でございますが、地域全体にとっても非常に魅力的な優遇措置が取られております。法人税、資産税、土地税、そして輸入機器に関する付加価値税が免除されることとなっております。また、インセンティブポートフォリオの拡大が

検討中でございます。さらに今現在、優先分野とされている産業分野はパッキングインダストリー、包装分野、化学関係の製品の包装、自動車、電気・電子機器、農業、その他、ポリプロピレンの材料、医療部門も挙げられます。

そして最後にこちらのリストをご覧頂きたいのですが、輸入化学製品ですけれども、アゼルバイジャンは非常に伸びてきている。またアゼルバイジャンは非常にポテンシャルのある市場だということをご理解いただければと思います。つまり全国にも市場が広まっているということでもあります。

そして最後のスライドになりますが、なぜ日本が大事かといいますと、日本はもちろん最新技術がある国でございます。科学技術のポテンシャルも非常に高いということでございますので我々としては、ぜひ日本の技術を導入していきたいと思っております。日本の企業の方々を誘致をさせていただきまして、ぜひ技術力を提供していただき、今後長期的に産業分野で交流していきたいと思っておりますし、産業クラスターの構築にご協力いただければと願っている次第です。私の方からは以上になります。



## Presentation 2014

**ABOUT AZERBAIJAN**  
brief

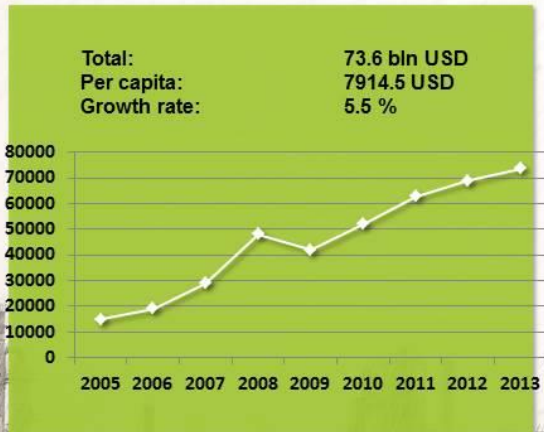


[www.scip.az](http://www.scip.az)

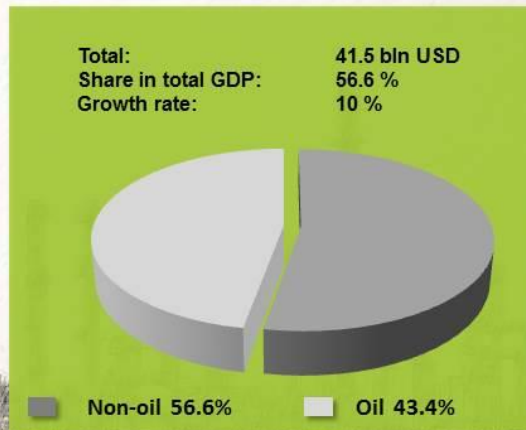
- **Establishment:** 28 May 1918
- **Independence:** 18 October 1991
- **Area:** 86.6 thousand km<sup>2</sup>
- **Population:** 9.168,000
- **Official Language:** Azerbaijani
- **Government:** Presidential Republic
- **Membership in:** UN (Non-permanent member of UN Security Council for 2012-2013), Council of Europe, OSCE, Non-Aligned Movement, OIC
- **Highlights:**
  - 1st democratic republic in the Islamic world
  - 1st Opera in the Islamic world
  - Women voting right in 1918 (while in Italy - 1946; Switzerland - 1971; France - 1944).



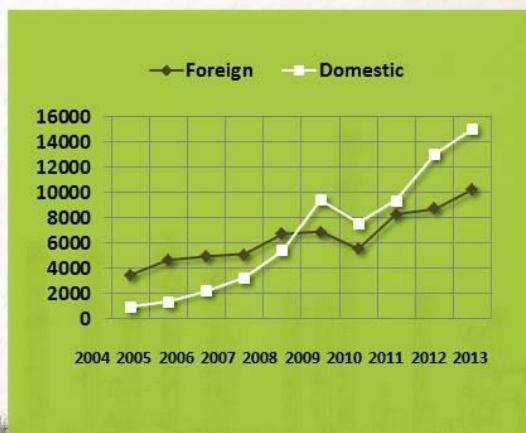
**GDP / 2013**



**Non-oil GDP / 2013**



**Investment / 2013**



**ABOUT AZERBAIJAN**  
stable economy 2013



[www.scip.az](http://www.scip.az)

**Trade / 2013**



**ABOUT AZERBAIJAN**  
competitive economy



[www.scip.az](http://www.scip.az)

**Global Competitiveness Report 2013-2014**



1<sup>st</sup> among CIS countries (5 times running)

**WB Doing Business Report 2014**



70th among 189 countries  
In Doing Business -2014



**Sovereign Debt Ratings**

Rating agency	Term	Rating	Outlook
<b>STANDARD &amp; POOR'S</b>	Long Term – Foreign Currency Short Term – Foreign Currency Long Term – Local Currency Short Term – Local Currency	BBB- A3 BBB- A3	Positive
<b>FitchRatings</b>	Long Term – Foreign Currency Short Term – Foreign Currency Long Term – Local Currency	BBB- F3 BBB-	Positive
<b>MOODY'S</b>	Long Term – Foreign Currency Long Term – Local Currency	Baa3 Baa3	Positive



- On November 22-nd, 1949 – By the decision of the Board of the Presidium of the Supreme Soviet of Azerbaijan Sumgait was given a status of city;
- Area – 83km<sup>2</sup>;
- Population – 358,000;
- Up to the end of 1980-s more than 40% of petrochemicals of the USSR were produced in Sumgait.

**Existing enterprises:**

- “Azerikimya” Production Union;
- Carton Factory;
- Sumgait Technologies Park;
- “Azguntex” Plant;
- Sumgait Chemical Industrial Park (SCIP)

**Perspective enterprises:**

- Carbamide Plant (in 2016)
- SOCARPolymer (in 2016)

## ABOUT SCIP

facts & figures



[www.scip.az](http://www.scip.az)

Total Site Area	167.66 ha
Ownership	Public property
Location	31km from Baku and close proximity to Baku-Rostov (Russia) highway
Infrastructure	Points of connection to utilities will be provided by "plug & play" system
Administration	"Sumgait Chemical Industrial Park" LLC under the management of Ministry of Economy and Industry
Job opportunity	Outlined work places 5000-7000



## ABOUT SCIP

the purpose of the foundation of SCIP



[www.scip.az](http://www.scip.az)

- Development of the country's industrial production competitiveness by the means of innovative and high technology;
- Promote and support entrepreneurship;
- Ensure stable development of non-oil sector;
- Increase of industrial employment of the population;
- Offer foreign investors a modern approach to greenfield industrial development.



**KEY BENEFITS FOR INVESTORS**  
favorable geographical location



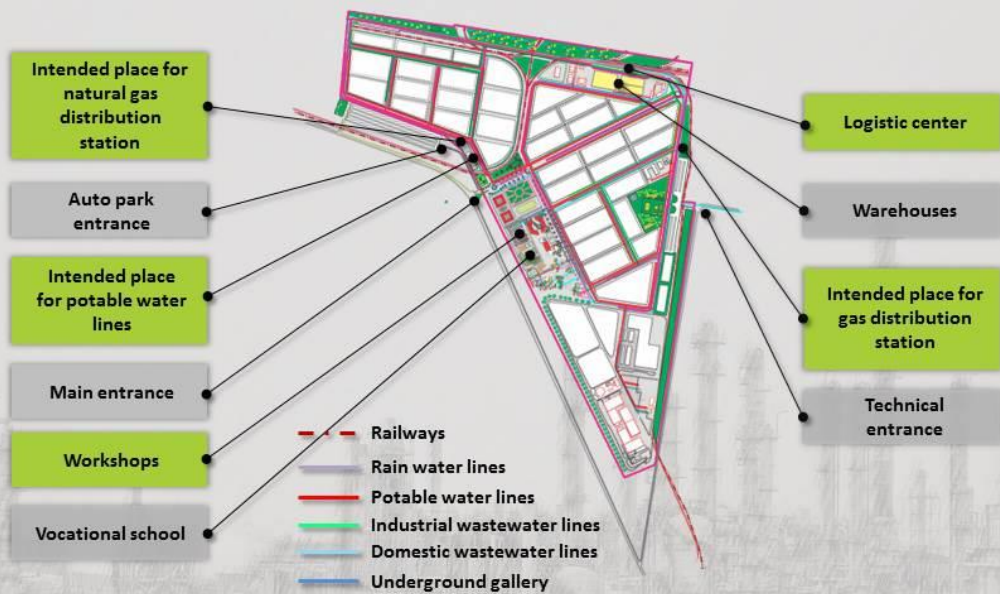
[www.scip.az](http://www.scip.az)



**KEY BENEFITS FOR INVESTORS**  
infrastructure



[www.scip.az](http://www.scip.az)

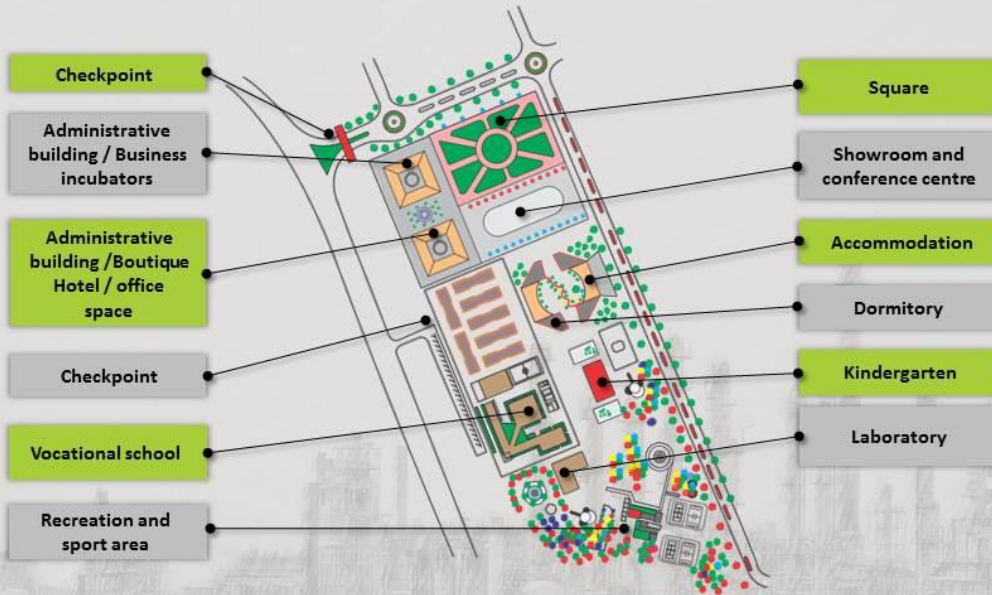


## KEY BENEFITS FOR INVESTORS

social zone



[www.scip.az](http://www.scip.az)



## KEY BENEFITS FOR INVESTORS

raw materials



[www.scip.az](http://www.scip.az)

### On-Site raw materials

In the nearest future Azerbaijan will have abundance feedstock for the production of chemical outputs. Thus, "Azerikimya" PU produces polymers from oil and gas and "SOCAR" is building new oil refinery complex in Alat.

№	Materials	year/tonnes				
		2013	2014	2015	2016	2017
1.	Polyethylene (LDPE)	105 000	130 000	150 000	100 000	70 000
2.	Polyethylene (HDPE)				50 000	80 000
3.	Polypropylene				150 000	150 000
4.	BBF	30 000	46 000	65 000	65 000	65 000
5.	Pure isopropyl alcohol	15 000	15 000	15 000	15 000	15 000
6.	Tar of light pyrolysis	73 000	35 000	37 000	37 000	37 000
7.	Tar of heavy pyrolysis	15 000	6 900	6 400	6 000	6 000

## KEY BENEFITS FOR INVESTORS

raw materials

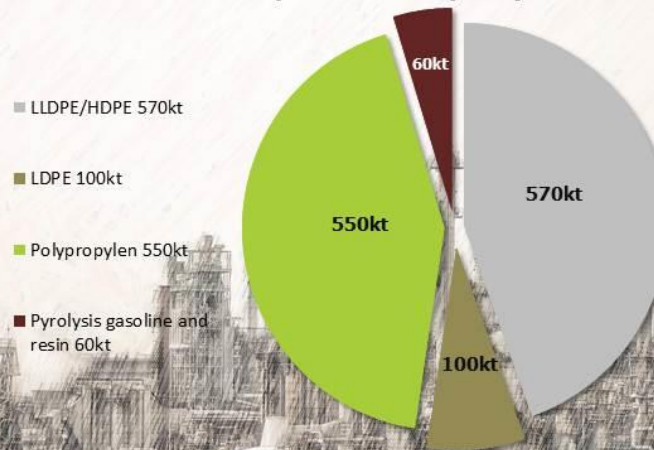


[www.scip.az](http://www.scip.az)

### Guaranteed Feedstock

OGPC project – It is planned to construct oil-refining and gas-refining plants with a capacity of 10 mln. tonnes and 10 bln. m<sup>3</sup> annually respectively. The project also includes petrochemical production aimed at creating about 2mln. tonnes of basic polymers annually.

### Annual production capacity



## KEY BENEFITS FOR INVESTORS

research & development, trainings



[www.scip.az](http://www.scip.az)

- Vocational school on site specialized in the field of chemistry, mechatronics and construction;
- A specific laboratory on site supplied with a modern equipment;
- 3 different workshops will serve for R&D and students studying in vocational school;
- Sumqayit is a traditional chemical city, there are a lot of universities specialized in the field of chemistry.

- "Gafgaz" University;
- Sumgayit State University;
- Oil-Chemistry processes Institute on the name of academician Y.H.Mammadaliyev;
- Institute of chemical problems on the name of academician M.F.Naghiyev;
- Chemical impurities Institute on the name of academician A.Guluyev;
- The training and learning center of SOCAR in Sumgayit city.

## KEY BENEFITS FOR INVESTORS

investor support services



[www.scip.az](http://www.scip.az)

### Information supply

- Handling investment inquiries;
- Sectoral investment opportunities;
- Investment projects.

### Organizational support

- Visa facilitation, accommodation, booking and transportation;
- Site visits;
- Meetings with local authorities and private institutions.

### Support in getting established

- One-stop-shop;
- Support in receipt of technical conditions, permits, licenses;
- Work permits;
- Consultings;
- Environmental monitoring;
- Trainings.

## KEY BENEFITS FOR INVESTORS

cost-effective labor force



[www.scip.az](http://www.scip.az)

Azerbaijan

Georgia

Belarus

Russia

Kazakhstan

Turkey

A high quality labor force is a necessary condition for economic growth.

Boom in oil and gas sector spurred a demand in human capital specialized not only in oil and gas field but also in a wide range of relevant areas.

**KEY BENEFITS FOR INVESTORS**  
incentives and government support



[www.scip.az](http://www.scip.az)

SCIP's residents are exempted for **7 years** from taxes below:

- Corporate income tax;
- Property tax;
- Land tax;
- VAT of imported equipments.

**0%**

The expansion of incentives portfolio is under consideration.

**KEY BENEFITS FOR INVESTORS**  
investment priorities



[www.scip.az](http://www.scip.az)

**PACKAGING INDUSTRY**

Growing world demand and the growth potential of Asian markets.



**BUILDING & CONSTRUCTION INDUSTRY**

Growing demand based on the construction boom and increased demand of construction materials in emerging markets.



**KEY BENEFITS FOR INVESTORS**  
investment priorities



[www.scip.az](http://www.scip.az)

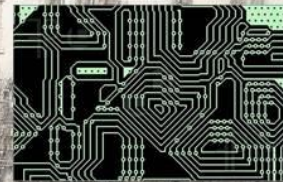
**AUTOMOTIVE INDUSTRY**

High performance and safety standards increase the importance of plastic usage in automotive industry.



**ELECTRICAL AND ELECTRONICS INDUSTRY**

Increasing demand from telecommunication sector in the upcoming years.



**KEY BENEFITS FOR INVESTORS**  
investment priorities



[www.scip.az](http://www.scip.az)

**AGRICULTURAL INDUSTRY**

Great investment potential in the emerging markets.



**BOPP**

Long term success and investment in such business will bring very high income and investment returns.



## KEY BENEFITS FOR INVESTORS

investment priorities



www.scip.az

### CONSUMER CHEMISTRY

Daily consumer chemistry has ideal investment ground in emerging markets with growing demand.



### MEDICAL CHEMISTRY

Investment in medical chemistry in emerging markets with growing demand will bring high investment returns.



## KEY BENEFITS FOR INVESTORS

investment priorities



www.scip.az

## Imported chemical products into Azerbaijan

IMPORTS, \$US thousands	2009	2010	2011	2012
Plastic and articles thereof	128,782	179,465	292,259	360,984
Pharmaceuticals products	142,177	152,132	243,031	241,735
Miscellaneous chemical products	54,181	70,454	117,165	111,730
Soap, washing preparations	58,324	69,185	77,000	82,058
Rubber and articles thereof	40,878	45,991	65,981	66,279
Inorganic chemicals; inorganic compounds of precious metals	29,641	28,679	36,616	54,308
Essential oils, perfumery, cosmetic and toilet preparations	35,222	43,779	46,459	52,181
Fertilizers	23,808	20,046	39,122	48,133
Organic chemicals	30,039	31,398	33,408	32,593
Tanning and dyeing extracts, paints and varnishes	20,873	16,221	20,357	27,845
Explosives; pyrotechnic products; matches	4,495	2,518	6,123	5,933
Albuminoidal substances; glues; enzymes	2,227	2,402	3,603	3,757
Photographic and cinematographic goods	1,399	1,077	2,812	2,234
<b>TOTAL IMPORT OF CHEMICAL GOODS</b>	<b>572,047</b>	<b>663,345</b>	<b>983,935</b>	<b>1,089,770</b>
<i>Growth rate</i>		16%	48%	11%

Source: the State Statistical Committee of the Republic of Azerbaijan

## Why Japan?



[www.scip.az](http://www.scip.az)

- Japan is one of the world's largest economies;
- Involving Japanese companies may tend toward growth of SCIP project benchmarking.
- Japan plays an important role as a bridge nation connecting Asia and the world;
- High level technologies and R&D capabilities;
- High corporate culture and production standards;

We believe attracting Japan technologies will:

- Contribute to the development of R&D in Azerbaijan
- Set a long-term industrial development
- Facilitate the growth of the clusters

Source: the State Statistical Committee of the Republic of Azerbaijan

## CONTACTS

"Sumgait Chemical Industrial Park" LLC



[www.scip.az](http://www.scip.az)

**Address:** Khatai district, Khojali avenue, 37  
**Tel:** 012 488-80-65  
**Fax:** 488-80-64  
**Email:** [office@scip.az](mailto:office@scip.az)  
**Website:** [www.scip.az](http://www.scip.az)

## <質疑応答・コメント>

### 田中哲二・日本アゼルバイジャン経済委員会顧問

私は、この会議にはもう10数年出席しておりまして、副首相とも旧知でございます。アゼルバイジャンは非常に天然資源豊富で、特に石油、天然ガス。経済発展を考える場合に石油セクターとノンオイルセクター、この2つのバランスを上手にとっていかなければならないであろうと何度も申し上げておりました。非石油セクターは2013年には10%くらい伸びたということで、大変結構なことではないかと思えます。これからも非石油セクターがどんどん伸びていくことを非常に期待しております。その時に、かつて日本が第二次世界大戦の後に傾斜生産方式というのをやりましてですね、非オイルセクターの中でどういう順番で産業を育成していくかということについてかなり綿密にいろいろな政策を打ったことがあります。アゼルバイジャンにおいても日本の傾斜生産方式的な形で非オイルセクターの成長をステップ・バイ・ステップで、尚且つプライオリティ、順番をきちんとつけてやるようにしたら同かということをお願いしてきました。おそらくその方がかなり実現して10%という成長率を挙げたのだと思えます。

それで質問ですが、非オイルセクターの成長率が10%内外の高い率を維持していくという計画、予想はつきますか。どうですか。そういったセクター別のウエイトの置き方については現在こうなっている、という現状がございましたらちょっとご説明いただけると我々としては非常にうれしいし、将来に対して希望が持てるという風に考えます。いかがでしょうか。

### シャリホフ副首相

まず、質問にお答えしたいと思います。(中略)今の非石油セクターに関するプライオリティということでもありますけれども、ICTというのがとても重要な分野であります。IT、ICTということになります。我が国はこの分野をとっても重要視しております。今日の報告の中にもありましたけれども代替・再生可能エネルギーということも重要であります。私もお話ししましたが農業も重要な分野であります。国民の45%は農村に暮らしていますので当然、農業に従事しているわけであります。ということで私たちは農業を重視しております。

石油化学も重要であり、加えてプレゼンテーションにもありました通りテクノパークの創設ということも重要であります。様々な分野での現代的な機械を製造する企業が入るテクノパークということでもあります。というのが主な分野であります。もう一度感謝申し上げたいと思えます。

## シャリホフ副首相

一つお願いがあるのですけれども、伊藤忠さんですね。プレゼンテーションがありましたけれども、帰国いたしましたら具体的にこのプロジェクトをやっているのか、担当者と確認をしながら、伊藤忠さんの、街路灯の話を具体的に進めていきたいと思いますので専門家を会わせて具体的な交渉ができればと思っております。この件に関しましても私自身このプロジェクトの具体的な情報がわかりませんので、戻りましたら確認していきたいと思います。

あと、地震関係のお話がありましたけれども、同じように私たちの方でも非常に興味を持っている分野です。防災です。アゼルバイジャンのみならず地域全体と致しまして、日本防災プラットフォームに関して非常に興味のあるプロジェクトでございます。ですので、非常事態省がございましたのでそちらの方から具体的に何か話を進めていただければと思います。何か他にご質問はありますでしょうか。

## 小林会長

街路灯については、来月、3月にバクー市のプレゼンテーションでお話をさせていただきました。

## シャリホフ副首相

いらっしゃるときには私の方にも是非ご連絡ください。大使の方、私達もご連絡を頂きまして参加したいと思っておりますので、しっかりとしたレベルで関与していきたいと思っておりますので、是非ご連絡をお願いします。

次官の方から情報通信の話があったわけですが、SOCAR 社長の方からも詳細なプロジェクトの話がありました。日本の企業に対しまして是非参加して頂きたいとプロジェクトの話もありました。世界中で日本企業は非常に最先端の企業でございますので、是非具体的に参加して頂きたいと思うのですが、ご関心のほどいかがでしょうか。

パイプラインのバクー～トビリシ～ジェイハンの時と同じように、是非友人の皆様に高ファイナンス、いろいろな面での参加をお願いしますというようなことを申し上げましたけれど、あのような形できちんとしたアピールをしなければならないでしょうか。あのプロジェクトよりももっと規模の大きなプロジェクトが出てきておりますが、まだ日本側からは何も具体的なリアクションもございませんので非常に不安になっております。ジョークでいっているのではありません。真剣に教えてください。

## 小林会長

まず、副首相は明日まで滞在されて、明後日に離日だと聞いております。既に先ほど私ども経済委員会のみならず日本の様々な企業がいろいろと個別にプロジェクトをやったり、情報を持っております。個別に話をするところもあるし、今日お話を聞いて更に、この省、機関、この会社のこの人、ということで明日も含めましていろいろコンタクトをしてお話を進めていただきたいと思います。それから先程の TANAP、TAP 等についてはまだ私のところまで全然情報が回っていませんけれども、たぶん、興味のある会社が検討させていただいて、SOCAR か経済産業省か副首相に直接か、入札なのででしょうか、コンタクトさせていただくことになると思います。

## シャリホフ副首相

ありがとうございます。まず、入札についてはこの経済合同委員会でお話しすることではなくて、落札するのは競争心に基づいて落札するわけなのですけれども、私が先ほど申し上げたのは、全体的に何をやっていけるのかではなく、例えば SOCAR の副社長から具体的なプロポーザルがございました。是非皆さんに来ていただきたいというご意見がございました。ですからお願いですから心から誠意をもってそれを検討していただきたいと思います。そしてこの呼びかけに答えていただきたいと思います。非常に大きなプロジェクトです。私どもは膨大な大きなプロジェクトに他でもない日本に参加して頂きたいと考えているわけです。ですからバクーに来ていただいてナシロフさんに具体的な質問を出してください。そして SOCAR プロジェクトについては副社長に直接お話をさせていただくことになると思います。SOCAR の彼がこの担当の窓口です。

それからその他の官庁、例えば通信、インフラ、IPA 省についても先月大臣がいました。そして皆様の方からもいらっしゃいました。それからこれは高ファイナンス、それからシェア、権益の参加、例えばもちろんこれが入札に参加していただくのは別の問題ですけれども、いずれにしろそこで出てきた具体的なプロポーザルについて真剣に検討していただきたいと思います。それから代替エネルギーについても同じです。ぜひご興味のある皆さん、お話を検討して頂いて私どもの大使館で準備いたしますので、確認していただいて、具体的な討議に入っていただきたいと思います。そして例えば官庁レベルで何かお手伝いすることになりましたら日本も同じ官庁レベルで私の方でお話をさせていただきますが、その部分によっては在京アゼルバイジャン大使館を通じていろいろと準備していきたいと思いますので、是非皆様の具体的な検討をお願いしたいと思います。

## 吉田副会長

副会長の吉田と申しますが、副首相のおっしゃったこと、それからバダロフさんがおっしゃった件で、再生エネルギーについて基本的に日本は興味があると思いますが、アゼルバイジャンの場合は日本より風が強い。たぶん日照時間も長いので太陽光でもだいぶ競争力があると思います。その場合に皆さんお知りになりたいと思うのですが、作った電気をいくらかの値段でどなたがお買い上げになるのか。ちょっとその辺のところを分かれば教えていただきたいと思います。

もう一つ質問がありまして、スムガイトのインダストリアルパークは、参加した企業は、いわゆる、元々の安いガス、安い石油のメリットを享受できるのかできないのか教えてください。

## サファロフ経済産業省次官

大変重要で興味深いご質問をありがとうございます。プレゼンテーションの中で発言いたしましたように日本企業にインダストリアルパークのレジデント（入居企業）になってほしいというのが私たちの気持ちです。今副首相も申しあげましたけれども日本のケミカル企業に、アゼルバイジャンに来ていただきたい。具体的にこのプロジェクトを管轄しているのは我が国の経済産業省であります。

そしていくつもの複合的な理由もありまして、まずインダストリアルパークの魅力ですけれども、現地の原材料というものであります。このスムガイト地区でありますけれども SOCAR、アゼルヒミヤに隣接していることができると思います。同じ地区、地域にあるわけです。大変簡潔に答えるとなれば次のようになります。

アゼルバイジャンにおいては国内価格と輸出価格には数倍の開きがあります。電力に関しても、燃料に関しても、ガスに関してもその他の石油製品に関してもであります。これをまず申し上げたいと思います。例えば伊藤忠の方はご存知だと思います。あるいは他の企業、例えば三井、三菱といった企業、アゼルバイジャンですでに何年も仕事している方はよく御存じです。ガスは国内価格と輸出価格とに、数倍の開きがあります。当然国内価格の方が安いです。アゼルバイジャンをご存知の方は良くご存知のはずです。エネルギーの価格ということですね。

代替エネルギーは誰が買うかということですが、まず申し上げたいのは我が国の国営企業、国家の保障は出しません、出せません。購入に関して、例えばこういう値段でエネルギーを作ったらエネルギーをこういう値段で買いますといった約束はできません。我が国の規則でありますけれども次のような形になります。代替エネルギーに関してはある町、あるいはある市町村に関して同じ kW 当たりの値段で実行しなければならないということでもあります。では補足をお願いします。

## バダロフ代替再生可能エネルギー庁長官

ご質問ありがとうございます。とても良い質問です。アゼルバイジャンに向けてのみならずこの分野全体への良い質問であります。私たちはまず具体的な経験に学ぶということから始めました。まず勉強から始めました。代替エネルギーの活用、これは単なる流行ではありません。例えば世界でやっているから我が国でもやろうというようなスタンスでは決してないわけです。私たちは国家レベルで3年間にわたって実験を行いました。その結果代替エネルギーでどこで発電できるのか絞りました。詳細をオープンにすることは難しいわけであり、ご希望があれば現在私達に国家から、あるいはアゼルバイジャン電力で提示されている価格ネットというものがありますので、それを住民あるいは企業に対して提供する6カペイカ、1ドルセントですね。これはノーマルな価格でありまして私たちも満足するものであります。日本の技術になぜ関心を持ったかということでもありますけれども特に風力に関してですけれども、これは日本で起きた津波の悲劇の後でありますけれども、現状よりも安い価格で電力を供給できるということになりまして、我が国においてもそれが風力によって実現できるかもしれません。といいますのは私達は1種類、2種類に限定しておるわけではないからです。以上が答えです。ありがとうございます。

## ＜閉会挨拶＞

### シャリホフ副首相

繰り返しになりますが、今日の会議の参加者の皆様にお礼を申し上げたいと思います。外務省の皆様、そしてこの会議の準備・運営をしてくださった皆様に心から感謝を申し上げます。友人の皆様全員に感謝を申し上げます。会議に参加してくださった方皆様にお礼を申し上げます。

今日の会議でありますけれどもこれまでの会議と違いがあります。まず第一の違いは、ここ直近の6年、7年で初めて具体的分野を挙げているわけです。非エネルギーセクターの具体的なセクター名を挙げて日本企業の皆さんに参加してほしい、視野を持ってほしいということで呼びかけています。これは我が国の産業におけるプライオリティの高い分野であります。近いうちに友人である日本企業の皆様、日本の政府、国家の政府機関がこういった重要な分野に参加してくれると信じています。そうすることがアゼルバイジャンにとっても日本にとっても利益になります。そしてお礼を加えて皆様に申し上げたいと思います。皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。どうもありがとうございました。

## 小林会長

それでは最後に私から閉会のご挨拶をしたいと思います。尊敬するシャリホフ副首相、ご列席の皆様。閉会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は多数の両国のご出席の皆さんのもと、大変実りの多い討議と情報交換が行われ、非常に充実した会議だったと思います。アゼルバイジャン側の代表者より、政府間協力プログラムを含むアゼルバイジャンの経済発展への支援、そしてエネルギー分野、非エネルギー産業を含めた、様々な産業分野における協力関係におけるご提案を具体的にいただきました。これらに関しましては、民間企業に関しましては参入可能な件につきましては実際のビジネスに結びつくよう積極的に努力をしてまいりたいと思います。

また、政府間協力案件に関しましては本日ご出席賜りました日本政府関係者の皆様には直接お伝えすることができましたし、また農業等他の関連省庁に対しましては、後ほどお伝えしたいと思います。また日本側からも様々な報告をさせていただきましたけれども報告案件を含めまして、今後とも日本とアゼルバイジャンとの協力関係におきましてご関心。ご質問等ございましたら、先ほども申しあげました通り、是非、日本アゼルバイジャン経済委員会事務局あるいは在日アゼルバイジャン大使館に直接コンタクトをお願いしたいと思います。

日本側議長と致しまして、また、日本アゼルバイジャン経済委員会会長と致しまして、改めてご列席の皆様のご協力に関して感謝を申し上げますとともに、シャリホフ副首相はじめ、今回来日されましたアゼルバイジャン日本経済協力国家委員会のスタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。

次回の第9回合同会議までに双方でフォローする作業を継続いたしまして、成功例を見出していきたいと思います。両国間のさらなる発展を祈りつつ第8回の経済合同会議のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。